

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教諭養成の目標等に関する書類）

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

本学は、知識基盤社会を支える有為の教育者を養成し、教育を通して社会変革を主導する拠点的な大学として、個人の幸福と世界の持続的発展に貢献し、それらを自律的かつ主体的に実現することができるコンピテンシー等を、未来を切り拓く重要な力として育成し、有為の教育者を養成することを使命としている。

この使命のもと、教育学部においては、①豊かな教養と広い視野により、②児童生徒をはじめとする人間の発達についての深い理解を得るとともに、③それぞれの専門的な学識・技能を身につけ、④それらを基に社会の様々な場における教育的な実践を行える優れた人材を育成することを目標としている。

この目標に基づき、それぞれの課程・専攻・コース所定の単位を修得し、学士課程全体を通じて体得した幅広い学識や研究手法などを基に、今後の社会において生じうる様々な課題に対して柔軟に対応できる発展性と、自己成長力を身に付けるとともに、立場を異にする者との連携・協働により、こうした課題解決に取り組むことができると認められる者に学士（教育）の学位を授与する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

教育学部全体において掲げる4つの育成目標について、学校教育教員養成課程では、以下の通り詳細を定める。

1 豊かな教養と広い視野

現代社会の諸事象（個々の人間存在・社会の構成・自然界の状況等）を主体的に捉え、多様な視野と方法をもって分析する力を身に付ける。

母語や文化を異にする多種多様な人々の思考を知り、相互に尊重し合い、円滑なコミュニケーションを図ることができる。

2 教育課題及び人間発達（特に学齢期）に関する理解

学齢期の児童・生徒を中心に、誕生から死に至る人間の発達の全体像と、それぞれの時期における課題の具体的なありようについて深く理解し、変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力と新たな価値を創造することができる力を子供に育成することができる。

時代や社会の状況に応じて変化する多様な教育課題を把握し、学校や社会をより良く変革することに自律的・主体的に取り組むことができるとともに、それぞれの時点での人間の知識・技能の個々の課題に応じて、発達を援助する実践につなげることができる。

3 専門的な学識・技能

学校教育で扱う各教科に連なる諸学問や、人間の発達や教育課題を解析する諸学問等について専門的な学識を持つとともに、そうした学識を基に研究的な発信をすることができる。

4 教育的な実践力

学校において生じる様々な教育課題について、児童生徒等の当事者の置かれている状況に即して適切に対応し、成長・発達を支援することができる。

立場を異にする様々な他者と連携・協働し、その時々で解決の迫られている諸課題の解決策を導くことができる。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

本学では、ディプロマポリシーに掲げるように、個人の幸福と世界の持続的発展に貢献し、それらを自律的かつ主体的に

実現することができるコンピテンシー等を、未来を切り拓く重要な力として育成し、有為の教育者を養成することを目標としている。その目標を達成するため、「教育創成科目」、「教育基礎科目」及び「専攻科目」を開設しており、教員になるための資質・能力の向上を図るため、それぞれの科目を以下の内容で実施している。

「教育創成科目」

子供・教師・学校が社会とともに良い未来を創造していく教育の実現に向けて、伸ばすべき5つの資質能力①「探究力、創造力、他者・社会と協働できる力」を育成する力②子供が置かれている多様な環境への対応力③学び続けるために自己をマネジメントする力④学校教育のより良い変革に資する基盤となる探究力、創造力⑤学校内での協働・社会との連携をマネジメントする力、に対応した科目で構成され、教育という営みの様々な課題について先端的な内容を学ぶ未来志向の内容です。学生は、自らの目指す教師の在り方・課題に基づいて主体的に授業科目を選択することで、自らの学びをデザインします。

1年生から3年生を対象に、主に学校教育にフォーカスしたもの（Ⅰ群）と学校内外での様々な教育課題に関わるもの（Ⅱ群）に区分され、学校教育教員養成課程と教育支援課程の学生が共通に学ぶ横断的な科目群となっています。

「教育基礎科目」

教育職員免許法を踏まえ、教育の基本的概念や基礎的な知識、教職の在り方及び児童生徒の発育等に対する理解を修得する「教育の基礎的理解に関する科目」（1、2年生対象）と、実践的な教育方法や指導法等を扱う「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」（2、3年生対象）により、学校教育にかかる基礎的な内容を学ぶ科目です。更に、1、2年生を対象とした「自己創造のための教育体験活動」にて学校現場での体験活動を主体的にデザインすることで自らの課題認識形成の端緒とし、3、4年生で履修する教育実習や教職実践演習等の「教育実践に関する科目」により、「教育の基礎的理解に関する科目」や「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」で学んだ内容を実践につなげます。

「専攻科目」

コース・プログラムで学ぶ教科等の専門的な学びを深める1～4年生を対象とした科目群です。保育における各領域や小学校、中学校、高等学校の各教科の指導をするために必要な内容を学ぶ「教科（保育内容）の指導法」や、教科等の専門性と学習指導の融合・架橋を図る「教育内容科目」を含みます。「卒業研究」は4年間の学びの集大成に位置づけ、全学必修科目とします。

また、「専攻科目」には初年次向け専門基礎科目（入門セミナー）を設け、新入生の大学における学修に加え、各コースの専門的な内容を円滑・効果的に進めるためのカリキュラムを編成しています。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

学校教育教員養成課程では以下の科目群により、ディプロマポリシーに掲げる以下3つの教員養成にかかる目標の達成を計画する。

● 教育課題及び人間発達（特に学齢期）に関する理解

学齢期の児童・生徒を中心に、誕生から死に至る人間の発達の全体像と、それぞれの時期における課題の具体的なありようについて深く理解し、変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力と新たな価値を創造することができる力を子供に育成することと、時代や社会の状況に応じて変化する多様な教育課題を把握し、学校や社会をより良く変革することに自律的・主体的に取り組むことができるとともに、それぞれの時点での人間の知識・技能の個々の課題に応じて、発達を援助する実践につなげることを目的に、「教育基礎科目」及び「教育創成科目」において、学校教育にかかる理論と方法や学校内外の教育課題について学修します。

● 専門的な学識・技能

学校教育で扱う各教科に連なる諸学問や、人間の発達や教育課題を解析する諸学問等について専門的な学識を持つとともに、そうした学識を基に研究的な発信をすることを目的に、「専攻科目」において、小学校、中学校、高等学校の各教科、特別支援教育の各領域及び養護に関する専門的な内容を学修します。

● 教育的な実践力

学校において生じる様々な教育課題について、児童生徒等の当事者の置かれている状況に即して適切に対応し、成長・発達を支援することができるとともに、立場を異にする様々な他者と連携・協働し、その時々解決の迫られている諸課題の解決策を導くことを目的に、「教育基礎科目」における「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」や「教育実践に関する科目」に分類される科目群に加え、「専攻科目」における教科等の専門性と学習指導の融合・架橋を図る「教育内容科目」、保育における各領域や小学校、中学校、高等学校の「教科（保育内容）の指導法」において、学校現場で活用できる実践力を学修します。

また、情報通信技術の活用においては、指導法としての利用にとどまらず、探究ツールとしての利用等についても触れることで、各教科等の主体的、対話的で深い学びによる実践力の養成につなげます。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

● 幼稚園教諭一種免許状

初等教育専攻幼児教育コースは、幼稚園の教諭免許取得を卒業要件に設定しており、質の高い幼稚園教諭、保育士、その他幼児教育の専門家を養成することを設置の目的としている。最新の幼稚園教育要領等にもとづき、乳児期、幼児期、児童期への発達や学びの連続性をふまえた教育や、園と家庭、地域との連携をふまえた教育を推進できる幼児教育の専門職の養成が可能となっている。

● 小学校教諭一種免許状

初等教育専攻（幼児教育コース以外）においては、小学校の教諭免許取得を卒業要件に設定しており、各教科の専門的な学びと指導法にかかる学びにより、免許取得に必要な専門的知識や実践力を養う。それら初等教育段階の教科の専門的な学びと指導法にかかる学びに加え、初等教育専攻の各教科系のコースでは対応する教科に特化した学びを深め、現代教育実践コースでは学校教育、学校心理、国際教育、環境教育のそれぞれの側面に重点を置いた学びを深めることで、コースに応じた専門性を有する小学校教諭の養成が可能となっている。

また、本学の小学校の教職課程の特長に、フラッグシップ大学の指定大学が加える科目として、教育創成科目の5科目を免許取得のための必修科目に位置付けていることが挙げられる。教育創成科目の必修5科目の履修により、子供・教師・学校が社会とともにより良い未来を創造していく教育を実現するための5つの資質能力『①「探究力、創造力、他者・社会と協働できる力」を育成する力②子供が置かれている多様な環境への対応力③学び続けるために自己をマネジメントする力④学校教育のより良い変革に資する基盤となる探究力、創造力⑤学校内での協働・社会との連携をマネジメントする力』に長けた小学校教諭の養成が可能となっている。

● 中学校教諭一種免許状

【国語】中等教育専攻の国語コースは日本語学・日本文学（古典文学・近代文学）・中国古典学と、教科教育学の国語科教育学、以上の四つの専門領域から成り立っており、学生はいずれかの領域に重点を置いた学習を選択する。これにより、自らの専門性を活かした中学校の国語科教諭の養成が可能となっている。

【社会】中等教育専攻の社会コースは、社会のしくみと原理について確実に専門的な知識を習得し、社会について学問的に考える能力を養うこと、またそれをもとに生徒の社会への関心を高め、公的資質の基礎を養成できる人材の養成を目的とする。これ

により、社会と社会科に強い中学校教諭の養成が可能となっている。

- 【数学】中等教育専攻の数学コースは、①中学校の数学の内容、数学教育の理論と実践についての素養を身につける、②数学に対する興味と理解を深める、③数学を学ぶことによって、自然や社会に対して自らの頭で論理的に考える態度を育てる、の3点を目標とする。これにより、高い数学的能力を身に付けた中学校教諭の養成が可能となっている。また、中等教育専攻の情報コースでは、コンピュータやデータサイエンスとの関連を意識した数学の知識を習得することにより、数学と情報化に関する専門性を有する中学校教諭の養成が可能となっている。
- 【理科】中等教育専攻の理科コースでは、物理学・化学・生物学・地学及び理科教育学の専門的な内容の科目が用意されており、学生は、個々の適性・興味・関心に従っていずれかの分野を選び、深く学び、高度で豊かな知識・技能を習得する。これにより、高い専門性を有する理科の中学校教諭の養成が可能となっている。
- 【音楽】中等教育専攻の音楽コースでは、学生は中学校の教諭に必要な基礎知識と技能を幅広く習得したうえで、6つの分野（声楽、ピアノ、管弦打、作曲、音楽学、音楽教育）から一つを選択し、専門的な学びを深める。これにより、音楽教育の理論と実践について高い素養を備えた中学校教諭の養成が可能となっている。
- 【美術】中等教育専攻の美術コースでは、中学校における美術の学習内容や指導法を習得しながら、高度で専門的な実技や理論を学び、豊かな感性と創造力を育むための表現力、鑑賞力、コミュニケーション能力を身につけることを目標としている。これにより、高度な専門性を有する美術の中学校教諭の養成が可能となっている。
- 【保健体育】中等教育専攻の保健体育コースでは、「保健体育科教育学」「体育学」「運動学」「健康科学」の学問領域に沿ってカリキュラムが構成されており、学生は関心が深い領域の関連科目を重点的に学習する。これにより、基本的な資質に加え、保健体育の授業や運動の指導に関して高度な専門性を有する保健体育の中学校教諭の養成が可能となっている。
- 【保健】養護教育専攻では、「生理学・栄養学」「衛生学・公衆衛生学」「学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）」「教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」の学問領域に沿ったカリキュラムに加え、保健科実習により、高度な専門性を有する保健の中学校教諭の養成が可能となっている。
- 【技術】中等教育専攻の技術コースでは、科学的に考え、実践する力を養い、体系的な知識・技能を十分学習できる専門教育のカリキュラムを組んでおり、実習を中心にした授業科目も多く開講している。これにより、高度な専門性を有する技術の中学校教諭の養成が可能となっている。
- 【家庭】中等教育専攻の家庭コースは、①生活科学と家庭科教育を実践的・体験的に学ぶ、②地域や社会と連携した主体的な学びを大切にす、③生活・文化を継承し、社会や環境とのつながりを学び創る、ことを目標に、講義科目に加え実験、実習科目でカリキュラムを構成する。これにより、生徒の生活の自立を支える家庭科の中学校教諭の養成が可能となっている。
- 【英語】中等教育専攻の英語コースは、①英語教育の理論や実践を学ぶための科目、②英語力を高めるための科目、③英語を科学的に分析する科目、④英米の文学・文化について学ぶ科目により、しっかりとした体系性と豊かな多様性を持ったカリキュラムを構成する。これにより、高い英語の技能を持つと同時に、英語とそれを取り巻く文化についての深い教養を身に付け、英語を学ぶ楽しさを生徒たちに伝えることができる英語科の中学校教諭の養成が可能となっている。

●高等学校教諭一種免許状

- 【国語】中等教育専攻の国語コースは日本語学・日本文学（古典文学・近代文学）・中国古典学と、教科教育学の国語科教育学、以上の四つの専門領域から成り立っており、学生はいずれかの領域に重点を置いた学習を選択する。これにより、自らの専門性を活かした高等学校の国語科教諭の養成が可能となっている。
- 【地理歴史】中等教育専攻の社会コースは、社会のしくみと原理について確実に専門的な知識を習得し、社会について学問的に考える能力を養うこと、またそれをもとに生徒の社会への関心を高めることのできる人材の養成を目的とする。これにより、社会と社会科に強い地理歴史の高等学校教諭の養成が可能となっている。
- 【公民】中等教育専攻の社会コースは、社会のしくみと原理について確実に専門的な知識を習得し、社会について学問的に考え

る能力を養うこと、またそれをもとに生徒の社会への関心を高め、公民的資質の基礎を養成できる人材の養成を目的とする。これにより、社会と社会科に強い公民の高等学校教諭の養成が可能となっている。

【数学】中等教育専攻の数学コースは、①高等学校の数学の内容、数学教育の理論と実践についての素養を身につける、②数学に対する興味と理解を深める、③数学を学ぶことによって、自然や社会に対して自らの頭で論理的に考える態度を育てる、の3点を目標としている。これにより、高い数学的能力を身に付けた高等学校教諭の養成が可能となっている。また、中等教育専攻の情報コースでは、コンピュータやデータサイエンスとの関連を意識した数学の知識を習得することにより、数学と情報化に関する専門性を有する高等学校教諭の養成が可能となっている。

【理科】中等教育専攻の理科コースでは、物理学・化学・生物学・地学及び理科教育学の専門的な内容の科目が用意されており、学生は、個々の適性・興味・関心に従っていずれかの分野を選び、深く学び、高度で豊かな知識・技能を習得する。これにより、高い専門性を有する理科の高等学校教諭の養成が可能となっている。

【音楽】中等教育専攻の音楽コースにおいて、学生は高等学校の教諭に必要な基礎知識と技能を幅広く習得したうえで、6つの分野（声楽、ピアノ、管弦打、作曲、音楽学、音楽教育）から一つを選択し、専門的な学びを深める。これにより、音楽教育の理論と実践について高い素養を備えた高等学校教諭の養成が可能となっている。

【美術】中等教育専攻の美術コースでは、高等学校における美術の学習内容や指導法を習得しながら、高度で専門的な実技や理論を学び、豊かな感性と創造力を育むための表現力、鑑賞力、コミュニケーション能力を身につけることを目標としている。これにより、高度な専門性を有する美術の高等学校教諭の養成が可能となっている。

【工芸】中等教育専攻の美術コースでは、高等学校における工芸の学習内容や指導法を習得しながら、高度で専門的な実技や理論を学び、豊かな感性と創造力を育むための表現力、鑑賞力、コミュニケーション能力を身につけることを目標としている。これにより、高度な専門性を有する工芸の高等学校教諭の養成が可能となっている。

【書道】中等教育専攻の書道コースは、書道実技、書道の歴史や理論、書写・書道教育の理論や指導法、国語の4つの領域についてバランスよく学ぶカリキュラム構成となっている。これにより、高等学校芸術科「書道」にかかる専門的な知識や技能、指導法等を身につける書道の高等学校教諭の養成が可能となっている。

【保健体育】中等教育専攻の保健体育コースでは、「保健体育科教育学」「体育学」「運動学」「健康科学」の学問領域に沿ってカリキュラムが構成されており、学生は関心が深い領域の関連科目を重点的に学習する。これにより、基本的な資質に加え、保健体育の授業や運動の指導に関して高度な専門性を有する保健体育の高等学校教諭の養成が可能となっている。

【保健】養護教育専攻では、「生理学・栄養学」「衛生学・公衆衛生学」「学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）」「教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の学問領域に沿ったカリキュラムに加え、保健科実習により、高度な専門性を有する保健の高等学校教諭の養成が可能となっている。

【家庭】中等教育専攻の家庭コースは、①生活科学と家庭科教育を実践的・体験的に学ぶ、②地域や社会と連携した主体的な学びを大切にする、③生活・文化を継承し、社会や環境とのつながりを学び創る、ことを目標に、講義科目に加え実験、実習科目でカリキュラムを構成する。これにより、生徒が生活を創造し、自立して社会へ参画することを支える家庭科の高等学校教諭の養成が可能となっている。

【情報】中等教育専攻の情報コースでは、情報科学、情報工学、教育工学の内容を体系的に学ぶとともに、その知識・技能を元に情報科の教育内容や教育方法を習得するカリキュラムを構成している。これらの科目を履修することにより、情報教育をリードする高等学校教諭の養成が可能となっている

【工業】中等教育専攻の技術コースにおいて、科学的に考え、実践する力を養い、体系的な知識・技能を十分学習できる専門教育のカリキュラムを組んでおり、実習を中心にした授業科目も多く開講している。これにより、高度な専門性を有する工業の高等学校教諭の養成が可能となっている。

【英語】中等教育専攻の英語コースは、①英語教育の理論や実践を学ぶための科目、②英語力を高めるための科目、③英語を科学的に分析する科目、④英米の文学・文化について学ぶ科目により、しっかりとした体系性と豊かな多様性を持ったカリキュラムを構成する。これにより、高い英語の技能を持つと同時に、英語とそれを取り巻く文化についての深い教養を

身に付け、英語を学ぶ楽しさを生徒たちに伝えることができる英語科の高等学校教諭の養成が可能となっている。

●特別支援学校教諭一種免許状

特別支援教育専攻では聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の4領域の特別支援学校教諭一種免許状取得を卒業要件にしており、聴覚障害・言語障害系コース、発達障害・学習障害系コース別に、コースの専門性に応じた歴史、原理、制度、心理、生理、病理、教育課程、指導法、教授法などを学ぶ。これにより、特別支援教育全般に関する豊かな専門的知識と実践力を兼ね備えた特別支援学校教諭の養成が可能となっている。

●養護教諭一種免許状

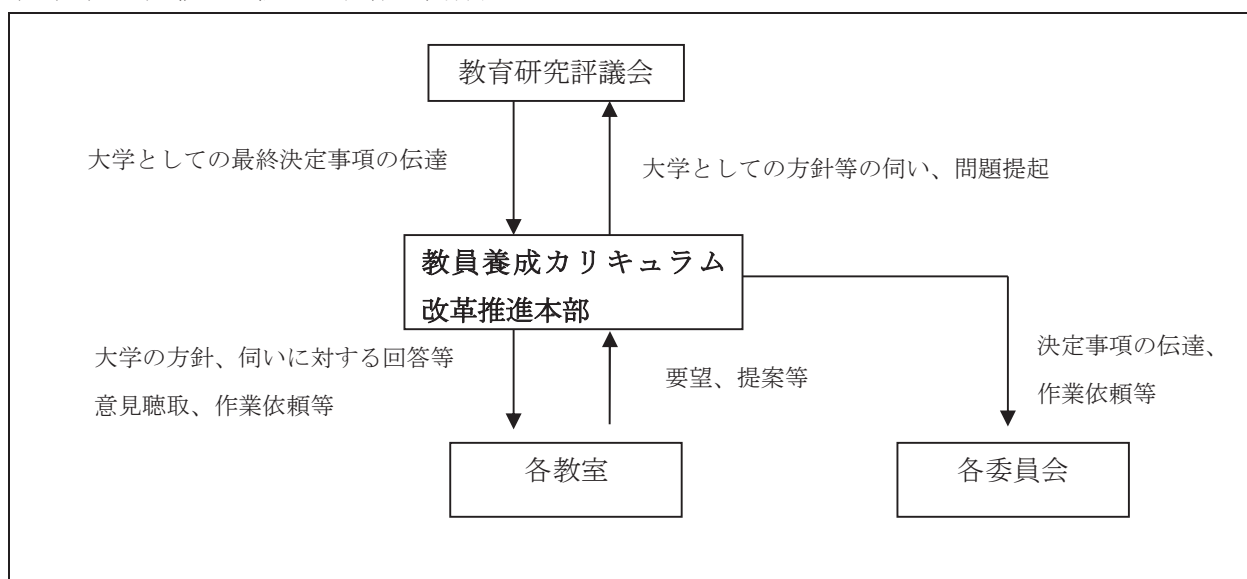
養護教育専攻では、「衛生学及び公衆衛生学」「学校保健」「養護概説」「健康相談活動の理論及び方法」「栄養学」「解剖学及び生理学」「微生物学、免疫学、薬理概論」「精神保健」「看護学」など多岐にわたる学問的基礎を学ぶ科目や、養護実習に加えて、病院や保健センターなどで実践力を養う実習科目がある。これらのカリキュラムにより、今日の子どもたちの多様で複雑な健康課題に対して、こころとからだの両面から健康支援ができる養護教諭の養成が可能となっている。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教員養成カリキュラム改革委推進本部
目的：	東京学芸大学の教養教育を含む学部及び大学院における教員養成カリキュラム(以下「教員養成カリキュラム」という。)の充実・強化を図り、初等・中等教育の優れた教員を多数養成する全学的体制を構築するための施策を立案するとともに、既設の関係委員会等との連携の下に、当該施策の実施を促進することを目的に、次に掲げる業務を行う。 (1) 教育活動に関する次期中期目標及び中期計画の提案並びに中期計画の推進 (2) 教員養成カリキュラムの検証及び充実・強化施策の立案に関する業務 (3) 教員養成に関わる教育組織及び支援体制の検証並びに充実・強化施策の立案に関する業務 (4) 教員養成に関する法制度改正への対応に関する基本方針の策定に関する業務 (5) カリキュラム改訂及び課程認定申請等に関する基本方針の策定に関する業務 (6) 教員養成における教育委員会等との連携協力に関する施策の立案に関する業務 (7) その他教員養成カリキュラムの改革に必要な業務
責任者：	推進本部長
構成員(役職・人数)：	(1) 学長が指名する理事又は副学長 3名 (2) 附属学校運営部長 (3) 教務委員会委員長 (4) 学長が委嘱する教員 若干名 (5) 学務部長
運営方法：	月に一度の定例開催。学部、大学院のカリキュラム改訂や改善、教職課程認定申請に向けての検討や審議を行う。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

特になし

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 自己創造のための教育体験活動

連携先との調整方法： 近隣市との連携や、学校からのボランティア募集などを活用し、体験活動先の調整を行う。

具体的な内容： 3年次の教育実習に参加する前に、自らが求めて学校現場等で教育体験活動を行うことを通して、教職の意義や魅力を体感したり、その課題に気づいたりする。参加にあたっては、ねらいを明確にした計画書を作成する。また、教育体験活動では教師や子どもの現実に触れる過程での気づきや考え、自己の成長を記録する。まとめとして学生間の情報共有や議論の場を設ける。こういったプロセスを通して、教職を目指す上での自己のアイデンティティを形成するとともに、自ら学び、成長し続ける意義について理解する。

さらに、ここで得た学びを基盤として、教育創成科目を選択して課題解決を図ったり、課題を明確化して教育実習に臨んだりする。

Ⅲ. 教職指導の状況

本学の学校教育教員養成課程においては教員免許取得が卒業要件であるため、指導教員や学務課窓口での卒業に向けた履修指導等の中に教職指導を含んでいる。全学的には、各学年を対象としたオリエンテーションや教育実習ガイダンス等を通して教職指導の機会を設けている。

また、教職志望の学生への就職指導として、教員就職相談員（校長や教育委員会等の要職経験がある本学卒業生）による論文添削・面接指導や進路選択等、教員就職に関する相談の機会を常時設けるとともに、3、4年生を対象とした教員採用試験対策の講座を年に複数回開催している。

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：幼一種免）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に付ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする幼児に対する理解と支援についても学ぶ。 幼稚園教育要領における領域「健康」・「言葉」の基盤となる知識を身に付ける。また、領域「環境」のねらい及び内容を理解し、指導案作成及び模擬保育とその振り返りを通して、具体的な保育場面を想定した指導力を身に付ける。
2年次	前期	幼児の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)についても理解する。 幼稚園教育要領における領域「人間関係」・「環境」の基盤となる知識・技能を身に付ける。また、領域「言葉」・「健康」のねらい及び内容を理解し、指導案作成及び模擬保育とその振り返りを通して、具体的な保育場面を想定した指導力を身に付ける。
	後期	保育実践のための子どもの理解や援助の方法と、教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 幼稚園教育要領における領域「表現」の基盤となる知識・技能・表現力を身に付ける。また、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、指導案作成及び模擬保育とその振り返りを通して、具体的な保育場面を想定した指導力を身に付ける。
3年次	前期	教育相談について、幼児の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着付ける。 また、幼稚園教育要領における領域「表現」のねらい及び内容を理解し、指導案作成及び模擬保育とその振り返りを通して、具体的な保育場面を想定した指導力を身に付ける。 附属幼稚園での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。
4年次	前期	学外の協力園で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：幼一種免）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		保育内容の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		領域に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史		幼児教育学	日本国憲法	発達心理学	
		2 D		教育組織論		乳幼児心理学	AI時代の情報	音楽表現	
							スポーツ・フィットネス実習	造形表現	
							英語コミュニケーションA	基礎音楽Ⅰ	
	後期	2 C			教職入門	幼児と健康(a)	子どもの遊びと生活	ウェルネス概論	基礎音楽Ⅱ
		2 F			特別支援教育の理解	幼児と言葉(a)		英語コミュニケーションB	
1-1 A				保育内容「環境」(a)					
2年次	前期	2 E		教育心理学	幼児と人間関係(a)	授業観察演習		障害児保育	
		2 O		幼児理解の理論と方法(a)	幼児と環境(a)			幼児心理学演習	
		1-1 A			保育内容「言葉」(a)				幼児音楽演習
		1-1 A			保育内容「健康」(a)				
	後期	3 K			教育の方法とICT	幼児と表現A(a)	保育原理		保育内容総論
		1-1 A			保育内容「人間関係」(a)	幼児と表現B(a)			
		2 G		保育・幼児教育課程総論(a)				幼児体育特講	
		3 M		教育相談の理論と方法					

3年次	前期	1-1	A	保育内容「表現A」(a)				
		1-1	A	保育内容「表現B」(a)				
		4		教育実習Ⅰ(A類)				
	後期					保育者論		幼児教育特論
4年次	前期	4		教育実習Ⅱ(A類)		幼児の健康指導研究		保育臨床相談
	後期	4		保育・教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：小一種免）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、各教科の指導法において教材研究、学習指導案作成、模擬授業などを通して、実践力を身に付けるとともに学校現場で活用できるデータサイエンスの基礎を学ぶ。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。 教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用や、データ活用についても理解を深める。 また、各教科の専門的な内容を学ぶとともに教材研究、学習指導案作成、模擬授業などを通して、実践力を身に付ける。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。生徒指導における個人指導及び集団指導や様々な課題を抱える生徒への指導、関係機関との連携とともに進路指導・キャリア教育について学ぶ。 自らが選択した教科の専門的な内容について学びを深めると同時に、教科の枠にとらわれないSTEAM教育を含む探究や創造を往還する学びのあり方を検討し、授業のデザイン力を高める。 また、教育実習前にファンリテーターとしての教師像を理解し、附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 更に、教師の自己管理能力の育成や、チーム学校における協働のあり方を学び、教師の働き方についても学ぶ。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と加地あを確認し、課題克服に務める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：小一種免）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史			日本国憲法	教育実践概論A	
		2 D		教育組織論			AI時代の情報	教育実践概論D	
							スポーツ・フィットネス実習		
	後期						英語コミュニケーションA		
		2 C			教職入門			ウェルネス概論	教育実践概論B
		2 F		特別支援教育の理解			英語コミュニケーションB	教育実践概論C	
2年次	前期	2 E		教育心理学		授業観察演習			
		3 H		道徳教育の指導法		Edtechと最先端技術の活用			
		1 A		初等算数科教育法					
		1 A		初等理科教育法					
		1 A		初等音楽科教育法					
		1 A		初等図画工作科教育法					
		1 A		初等家庭科教育法					
	後期	1 A			初等社会科教育法				
		3 K			教育の方法とICT	社会科研究	教育のためのデータサイエンス		
		2 G			教育課程の理論と実践				
		1 A			初等国語科教育法				
		1 A			初等体育科教育法				
		1 A			初等英語科教育法				
3年次	前期	3 M		教育相談の理論と方法	国語科研究	社会に開かれた探求と創造の学びのデザイン			
		3 I、J		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	算数科研究	学びを支えるファシリテーションの技法			
		3 L、N		生徒指導・進路指導の理論と方法	図画工作科研究				

		4	教育実習Ⅰ(A類)	音楽科研究			
	後期				チーム学校と多職種協働		
					教師のレジリエンスと自己管理能力の育成		
4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(A類)				
	後期	4	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免 国語科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、中学校国語科における近代文学、古典文学、中国古典の基礎的な知識を身に着けるとともに、日本語に関する文法等の概要および日本語教育の現状について学び、国語科全般に関する基礎を固める。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、文学史や中国古典、児童文学の作品研究、さらに日本語の音声・文字・語彙などについて学ぶとともに、外国につながる生徒へのマルチリンガル教育の視点も身につける。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、時代ごとの日本文学や中国古典研究、日本語の文法の詳細について演習形式で学んだり、児童文学研究や日本語教育の理論についての知識を深め、教育活動としての実践方法まで視野を広げる。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、時代ごとの日本文学の作品研究、日本語の諸側面について演習の形式で学んだり、言語文化としての現代文化や日本語教育の教材開発と活用についても知識を深めたりする。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、中学校における国語科教育および日本語・日本文学、中国古典、日本語教育に関する専門的な知識を身に着け、実践的な教育活動に対応できる幅広い力を養う。附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た知識の活用方法について実践的に学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、中学校国語科で必要とされる高い専門性を身に着ける。日本文学・中国古典学の文献研究や応用的な研究法や、日本語の音声の特徴についての学びや日本語教育の実地見学を行う。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、中学校国語科における専門的知識や技能をさらに掘り下げる。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、中学校国語科で求められる知識・技能をさらに錬磨し、生徒に還元できる教育実践方法を身につけるよう努める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中学校 国語科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	日本語学概論 I		日本国憲法		
		2 D		教育組織論	日本古典文学史		AI時代の情報		
					日本近代文学概論		スポーツ・フィットネス実習		
					日本古典文学概論		英語コミュニケーションA		
					中国古典文基礎				
					中国古典文学概論				
	後期	2 C			教職入門	日本語学概論 II		ウェルネス概論	
		2 F			特別支援教育の理解	日本近代文学史		英語コミュニケーションB	
						中国古典演習B			
2年次	前期	2 E		教育心理学	日本語文法	授業観察演習			
		3 H		道徳教育の指導法	日本語学演習A				
		1 A		中等国語科教育法 I	古典文学演習B				
					近代文学演習B				
					中国古典演習A				
	3 K			教育の方法とICT	書写A			現代文化論	
後期	2 G			教育課程の理論と実践	古典文学演習A				

		1 A	中等国語科教育法Ⅱ	近代文学演習A			
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法		国語科カリキュラム論		研究法Ⅰ
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法				
		1 A	中等国語科教育法Ⅲ				
		4	教育実習Ⅰ(B類)				
	後期	1 A	中等国語科教育法Ⅳ	日本語音声	国語科教材論		研究法Ⅱ
				文献講読Ⅰ			
				文献講読Ⅱ			
	4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)			
後期		4	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免 社会科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、中学校社会科の内容を構成する地理的、歴史的、公民的の各分野を指導するために必要となる教科に関する専門的事項のうち、日本史、地理学、社会学、経済学について一般的包括的な内容を学ぶ。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、中学校社会科の内容を構成する歴史的、公民的の各分野を指導するために必要となる教科に関する専門的事項のうち、外国史、哲学、倫理学、宗教学、法律学、政治学について一般的包括的な内容を学ぶ。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、中学校社会科の指導法のうち、公民的分野の指導法に関して学習指導案の作成を含めた基礎的な部分を学ぶ。また、中学校社会科の内容を構成する地理学分野を指導するために必要となる地理学に係る一般的包括的内容を含む教科に関する専門的事項を学ぶ。あわせて、中学校社会科の内容を深めるためにより専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、中学校社会科の指導法のうち、地理的分野・歴史的・公民的分野の指導法に関して学習指導案の作成を含めた基礎的な部分を学ぶ。あわせて、中学校社会科の内容を構成する地理学分野を指導するために必要となる地理学に係る一般的包括的内容を含む教科に関する専門的事項を学び、同時に、中学校社会科の内容への理解を深めるためにより専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、中学校社会科の指導法のうち、地理的分野・歴史的・公民的分野の指導法に関して模擬授業を含めた発展的な内容を学ぶ。あわせて、中学校社会科の内容への理解を深めるためより専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、中学校社会科の指導法のうち、公民的分野の指導法に関して模擬授業を含めた発展的な内容を学び、あわせて中学校社会科の内容への理解を深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、中学校社会科の内容への理解をより深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、また、中学校社会科の内容への理解をより深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中学校 社会科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	日本史概論A～D		日本国憲法	
		2 D		教育組織論	地理学概論		AI時代の情報	
					経済学概論		スポーツ・フィットネス実習	
					社会学概論		英語コミュニケーションA	
	後期	2 C		教職入門	外国史概論A～D		ウェルネス概論	
		2 F		特別支援教育の理解	哲学・倫理学・宗教学概論		英語コミュニケーションB	
					法学概論			
					政治学概論			
					自然環境			
前期	2 E		教育心理学	日本史研究と歴史教育A	社会科カリキュラム論			
	3 H		道德教育の指導法	歴史学概論				
	1 A		中等社会科・公民科教育法 I	歴史学文献講読A				
				哲学基礎資料講読				
				民法A				
				都市社会学				
				外国史研究と歴史教育B				

2年次				外国史研究と歴史教育C			
	後期	3 K	教育の方法とICT	地誌学概論			
		2 G	教育課程の理論と実践	歴史学基礎演習B			
		1 A	中等社会科・地理歴史科教育法 I	外国史研究と歴史教育A			
				刑法B			
				自然地理学研究			
				日本史研究C			
			地理情報と地図				
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	経済学応用論			日本史演習E I
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法				
		1 A	中等社会科・地理歴史科教育法 II				
		4	教育実習 I (B類)				
後期	1 A	中等社会科・公民科教育法 II		社会科教材論		日本史演習E II	
4年次	前期	4	教育実習 II (B類)				日本史演習F I
	後期	4	教職実践演習				日本史演習F II

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免 数学科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、数学における論理的な記述表現の方法、基本的な線形代数、微積分の理論を理解する。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、数学において基本的な概念である線形代数、微積分の理論を修得する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、基礎的な数学の内容である代数学、幾何学、解析学、確率論、統計学の分野及びコンピュータの概念を理解する。それとともに、中学校数学科における目標とそれに基づく授業づくりの基礎的な考え方を理解する。 学校現場での体験活動を通して、学校現場の実際について、理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、基礎的な数学の内容である代数学、幾何学、解析学、確率論、統計学の分野の理論を修得する。さらに、中学校数学科の内容を数学的立場、教育的立場から考察し、教材研究に活用する方法を修得するとともに、授業を行う準備・実施を通じて、指導案作成や授業設計を行う方法を身につける。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、代数学、幾何学、解析学、確率論の各分野での現代数学のより深い理論を理解する。さらに、教育実習の事前指導及び附属学校での教育実習等を通して、学習指導案の作成や授業観察、省察の方法について修得するとともに、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、代数学、幾何学、解析学、確率論の各分野での現代数学のより深い理論を修得する。それとともに、中学校数学科のカリキュラムや数学教育学における研究について理解を深める。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、数学、数学教育の専門的内容を論理的に理解し、表現できるようにする。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、数学、数学教育の専門的知識を、自分の言葉で表現し活用できるようにする。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中学校 数学科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	集合と論理		日本国憲法	微分・積分学 I	
		2 D		教育組織論			AI時代の情報	線形数学 I	
								スポーツ・フィットネス実習	微分・積分学演習 I
								英語コミュニケーションA	線形数学演習 I
	後期	2 C		教職入門				ウェルネス概論	微分・積分学 II
		2 F		特別支援教育の理解				英語コミュニケーションB	線形数学 II
									微分・積分学演習 II
									線形数学演習 II
2年次	前期	2 E		教育心理学	解析学 I				
		3 H		道徳教育の指導法	代数学 I				
		1 A		中等数学科教育法 I	幾何学 I				
					確率・統計 I				
					位相数学				
	後期	3 K		教育の方法とICT	解析学 II	数学科教材論			
2 G			教育課程の理論と実践	代数学 II					

	後期	1 A	中等数学科教育法Ⅱ	幾何学Ⅱ			
				確率・統計Ⅱ			
				位相空間論			
				コンピュータ概論			
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	解析学各論A			数学科教育臨床
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	代数学各論			
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法	幾何学各論			
		1 A	中等数学科教育法Ⅲ	確率論特論I			
		4	教育実習Ⅰ(B類)				
	後期	1 A	中等数学科教育法Ⅳ	解析学各論B	数学カリキュラム論		数学教育研究
			確率論特論II				
4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)				
	後期	4	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免 理科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、物理・化学・生物・地学4分野全ての基礎的な知識及び実験の技法等を学び、中学校理科を指導する上で不可欠な教科専門の基本的事項を俯瞰し、体系立てて身につける。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、引き続き、物理・化学・生物・地学4分野全ての基礎的な知識及び実験の技法等を学び、中学校理科を指導する上で不可欠な教科専門の基本的事項を俯瞰し、体系立てて身につける。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、物理・化学・生物・地学のうち各自が専攻する分野についての高度な専門的知識・技能を系統的に習得する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、引き続き、物理・化学・生物・地学のうち各自が専攻する分野についての高度な専門的知識・技能を系統的に習得し、教材研究、学習指導案作成及び模擬授業等を通して中学校理科を指導する方法についても学習する。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、専攻分野に関する最前線の研究活動に加わり、教科専門のさらに高度な知識・技能を習得するとともに、中学校理科の指導法について専門的な観点から学び、教科専門を背景とした学習指導案の作成や授業準備ができるようにする。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、研究室での活動を通し、専攻分野に関する最前線の学びを深めるとともに、専門性が伴う中学校理科の教材研究、学習指導案作成の能力を高め、教科専門を背景とした授業研究により自らの授業を改善していく力を身につける。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、専攻分野に関する研究を具体的に進め、自らの考えを検証し、自然科学的な手法を実践する。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、専攻分野に関する研究を仕上げ、研究論文にまとめ、発表できるようにする。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：中学校 理科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	物理学実験		日本国憲法		
		2 D		教育組織論	生物学実験		AI時代の情報		
						物理学概論I		スポーツ・フィットネス実習	
						化学概論 I		英語コミュニケーションA	
						生物学概論 I			
						地学概論 I			
	後期	2 C			教職入門	化学実験		ウェルネス概論	
		2 F			特別支援教育の理解	地学実験		英語コミュニケーションB	
						物理学概論II			
						化学概論 II			
						生物学概論 II			
						地学概論 II			
2年次	前期	2 E		教育心理学	力学 I	授業観察演習			
		3 H		道徳教育の指導法	電磁気学 I	理科カリキュラム教材開発基礎A			
						数理物理学 I	理科カリキュラム教材開発基礎B		
			3 K		教育の方法とICT	力学 II			

	後期	2 G	教育課程の理論と実践	電磁気学Ⅱ			
		1 A	中等理科教育法Ⅰ	相対性理論			
					数理物理学Ⅱ		
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	量子力学Ⅰ			専修物理学実験A
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	熱力学			
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法	統計力学			
		1 A	中等理科教育法Ⅱ				
		4	教育実習Ⅰ(B類)				
	後期	1 A	中等理科教育法Ⅲ	量子力学Ⅱ			専修物理学実験B
		1 A	中等理科教育法Ⅳ	物性物理学			
4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)				
	後期	4	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免 音楽科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、中学校音楽科の指導目的・内容・教材・方法の基本的内容を理解する。学習指導要領、学習指導案の作成について学ぶ。音楽科の指導に必要な音楽の基礎知識を学び、歌唱、演奏技能の基本を身につける。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、中学校音楽科の器楽の学習指導、教材について検討し、ピアノ伴奏や弾き歌いの基礎を学ぶ。音楽科の指導に必要な知識についてさらに理解を深め、歌唱、演奏技能の基礎を固める。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、中学校音楽科での創作や鑑賞の指導に必要な方法を学び、指導案の作成や模擬授業を行う。音楽科の指導に必要な指揮法や邦楽歌唱法も身につけ、さらに1年次に身に付けた歌唱、演奏技能を高める。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、中学校音楽科でとりあげる和楽器やリコーダーアンサンブルに関する教材を実践的に扱い、音楽科の指導に必要な知識をさらに広げる。これまで身に付けた歌唱、演奏技能を高度に発展させる。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、大規模な合奏について実践的に学ぶ等、中学校での様々な音楽活動に対応できる幅広い力を養う。音楽科の指導に必要な専門的技術を掘り下げて学ぶ。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 更に、音楽科で重視されている現代的教育課題や日本の伝統的音楽に関して、発展的な内容を学ぶことにより、教師に今後必要とされる資質能力を身に着ける。 また、中学校音楽科で必要とされる知識をさらに深く学び、専門的技術をさらに掘り下げる。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、中学校音楽科で必要となる知識・技能をさらに錬磨し、自家薬籠中のものとなるよう努める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中学校 音楽科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	基礎音楽実技Ⅰ		日本国憲法	音楽学基礎研究A
		2 D		教育組織論	基礎ピアノ実技Ⅰ		AI時代の情報	
		1 A		中等音楽科教育法Ⅰ	基礎管弦打実技Ⅰ		スポーツ・フィットネス実習	
					作曲法Ⅰ		英語コミュニケーションA	
					音楽学概論A			
					合唱			
	後期	2 C		教職入門	基礎音楽実技Ⅱ		ウェルネス概論	
		2 F		特別支援教育の理解	基礎ピアノ実技Ⅱ		英語コミュニケーションB	
		1 A		中等音楽科教育法Ⅱ	基礎管弦打実技Ⅱ			
					作曲法Ⅱ			
					音楽学概論B			
					ソルフェージュⅡ			
	前期	2 E		教育心理学	基礎音楽実技Ⅲ			
3 H			道徳教育の指導法	基礎ピアノ実技Ⅲ				
1 A			中等音楽科教育法Ⅲ	基礎管弦打実技Ⅲ				

2年次				指揮法				
				邦楽歌唱法B				
	後期	3 K	教育の方法とICT	基礎声楽実技IV	音楽科教材論B			
		2 G	教育課程の理論と実践	基礎ピアノ実技IV				
		1 A	中等音楽科教育法IV	基礎管弦打実技IV				
				和楽器B				
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	オーケストラ			ピアノ実技 I	
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				民族音楽演習A	
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法					
		4	教育実習 I (B類)					
	後期			音楽学概論C	音楽科カリキュラム論B			ピアノ実技 II
								音楽療法概説
								音楽教育特別研究B
4年次	前期	4	教育実習 II (B類)					
	後期	4	教職実践演習					

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免 美術科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、中学校における美術科の基礎として、絵画、彫刻、デザイン、工芸、鑑賞の各領域を包括的に学び、美術科における教材としての可能性について理解を深める。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、中学校における美術科として、絵画、彫刻、デザイン、工芸、鑑賞の各領域の基礎的知識や技能について包括的に理解を深め、美術科教師として必要とされる教材観や題材観について考察する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、学習指導要領における美術科の目標及び育成を目指す資質・能力、主な内容について理解し、各領域の知識や技能等の専門性について学びながら、美術科の全体構造を理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、美術科と背景となる学問領域との関係を理解し、各領域の知識や技能等の専門性を高めて教材研究に活用するとともに、学習内容の指導上の留意点や学習評価の考え方について理解を深める。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、学習指導案の構成を理解し、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けながら、美術科の具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、美術科における実践研究の動向を知り、発展的な学習内容について探求し、学習指導への位置付けを考察しながら、授業設計の向上に取り組むことができる。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と加地あを確認し、課題克服に務める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中学校 美術科）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	絵画基礎Ⅰ	美術科教育演習Ⅰ	日本国憲法	
		2 D		教育組織論	彫刻基礎Ⅰ		AI時代の情報	
					デザイン基礎Ⅰ		スポーツ・フィットネス実習	
					工芸基礎Ⅰ		英語コミュニケーションA	
	後期	2 C		教職入門	絵画基礎Ⅱ	美術科教育演習Ⅱ	ウェルネス概論	
		2 F		特別支援教育の理解	彫刻基礎Ⅱ		英語コミュニケーションB	
					デザイン基礎Ⅱ			
					工芸基礎Ⅱ			
					西洋美術史概論			
	2年次	前期	2 E		教育心理学	絵画演習A	美術科教育演習Ⅲ	
3 H				道徳教育の指導法	彫刻演習A			
1 A				中等美術科教育法Ⅰ	デザイン演習A			
					工芸演習A			
					日本東洋美術史概論			
3 K			教育の方法とICT	絵画演習B	美術科教材論		美術演習AⅡ	
	2 G		教育課程の理論と実践	彫刻演習B				

	後期	1	A	中等美術科教育法Ⅱ	デザイン演習B			
					工芸演習C			
					美術史実地研修			
3年次	前期	3	M	教育相談の理論と方法				美術演習BⅠ
		3	I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				
		3	L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法				
		1	A	中等美術科教育法Ⅲ				
	4		教育実習Ⅰ(B類)					
	後期	1	A	中等美術科教育法Ⅳ	美学	美術科カリキュラム論		美術演習BⅡ
4年次	前期	4		教育実習Ⅱ(B類)				
	後期	4		教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免 保健体育科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、体育学の基礎的内容や体育実技を通して、運動・スポーツに対する興味関心を喚起し、中学校保健体育教員になる意欲を醸成する。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、保健や安全に関する知識を習得するとともに、校外学習を通して、体育的行事の重要性と共に、生徒指導の在り方を理解する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、中等保健体育科教育法で保健体育授業の目標、内容、方法について学び、体育実技で学んだ内容と関連づけながら指導案を作成して、模擬授業を実施する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、中等保健体育科教育法や保健体育科模擬授業演習Bにおいて、指導案作成、模擬授業を繰り返し実施して教育実習前に実践的に学ぶ。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、これまで学んできた運動・スポーツ科学を踏まえ、その理論を体育授業でどのように活かすのかを中等保健体育科教育法において深化、統合する。 属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、教職実践演習で、教科教育、教科専門について改めて学ぶことで、中学校保健体育教員としての自覚を涵養するとともに、これまでの学びの成果と課題を整理する。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中学校 保健体育科）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	器械運動B		日本国憲法	
		2 D		教育組織論	陸上B		AI時代の情報	
					水泳B		スポーツ・フィットネス実習	
					体づくり運動B		英語コミュニケーションA	
					体育原理B			
					体育史			
					解剖生理学			
	後期	2 C		教職入門	ダンス		ウェルネス概論	スキー
		2 F		特別支援教育の理解	サッカーB		英語コミュニケーションB	
					体育・スポーツ心理学			
					学校保健学B			
					学校安全・救急処置			
	前期	2 E		教育心理学	ソフトボールB	遊びと発育・発達		野外環境教育学実習
		3 H		道徳教育の指導法	柔道B	授業観察演習		野外環境教育学
1 A			中等保健体育科教育法 I	運動生理学B			インクルーシブスポーツ	
				スポーツバイオメカニクス			ダイバーシティスポーツ	

2年次				衛生・公衆衛生学B			体育科学習評価論	
							教科教育・特活指導計画論	
	後期	3 K	教育の方法とICT	バスケットボールB	保健体育科教材研究B		スポーツ動作分析法	
		2 G	教育課程の理論と実践	ラグビー			保健体育科模擬授業演習B	
		1 A	中等保健体育科教育法Ⅱ	ハンドボール			体育・スポーツ統計学	
		1 A	中等保健体育科教育法Ⅲ	バレーボールB				
					剣道B			
					運動方法学総論B			
				体育・スポーツ社会学				
			体育・スポーツ経営学					
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	体育科指導演習	保健体育科カリキュラム開発論B		保健体育・スポーツ専門英語演習	
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	学校部活動総論			保健体育科研究法B	
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法					
		1 A	中等保健体育科教育法Ⅳ					
		4	教育実習Ⅰ(B類)					
	後期			体育理論			ラケットスポーツ	
4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)					
	後期	4	教職実践演習					

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免 保健科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また人体の解剖など、体の仕組みについて学び、保健科を教えるための基礎的知識を身に着ける。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、生体の機能についての理解を深め、保健科を教えるために基礎知識を身に着ける。さらに公衆衛生について学び、疾病の予防に関する社会の仕組みについての理解を深める。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、学校における安全面や危機管理について学ぶことで、保健科における安全教育の基礎についての理解を深める。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、栄養に関する知識や小児の特性、精神に係る知識を学ぶことで保健を教えるための具体的な知識を身に着ける。そして、保健行動について科学的な理論を学ぶことで、保健科の授業を組み立てるための具体的な知識を身に着ける。さらに学習指導要領を構造的に理解することで具体的な指導案の作成等の基礎となる知識を身に着ける。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、救急処置についての知識と教えるための実践的な技術を身に着け、保健を教えるための具体的な技術を身に着ける。さらにグループで保健科の指導案や教材作成を行うことで、保健科の模擬授業を実施するための知識・技能を身に着ける。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、一人で中学校保健体育の保健分野の指導案並びに資料を作成し、模擬授業を実施することで、実践力を身に着ける。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、3年時とは別の内容の中学校保健体育の保健分野の指導案と資料を作成し、実際の中学校と同じ時間を用いて模擬授業を行うことで、実践力を高める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中学校 保健科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	解剖学		日本国憲法	
		2 D		教育組織論			AI時代の情報	
							スポーツ・フィットネス実習	
							英語コミュニケーションA	
	後期	2 C			教職入門	生理学	教職基礎としての子供の安全	ウェルネス概論
		2 F			特別支援教育の理解	衛生・公衆衛生学		英語コミュニケーションB
						学校保健学A		
						学校保健学		
2年次	前期	2 E		教育心理学	学校安全と危機管理	養護活動カリキュラム論	児童福祉論	
		3 H		道徳教育の指導法				
	後期	3 K			教育の方法とICT	精神保健	学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル	地域福祉論 I
		2 G			教育課程の理論と実践	保健行動科学		
		1 A			中等保健科教育法 I	健康と栄養		
						小児科学		
		3 M		教育相談の理論と方法	救急処置の理論と演習	健康教育教材論		

3年次	前期	3	I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				
		3	L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法				
		1	A	中等保健科教育法Ⅱ				
		4		教育実習Ⅰ（B類）				
	後期	1	A	中等保健科教育法Ⅲ				スクールソーシャルワーク論
4年次	前期	1	A	中等保健科教育法Ⅳ				
		4		教育実習Ⅱ（B類）				
	後期	4		教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免 技術科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、技術科に関する専門教育では、中学校学習指導要領等に規定された技術科の制度上の仕組みを学ぶとともに、学習指導に関する初歩的な内容及び専門的内容を学ぶ上での基礎となる数学、物理に関する知識・理解を深める。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、技術科に関する専門教育では、教材論を中心とした技術科教師論や教育条件整備等を学ぶとともに、学習指導に関する初歩的な内容及び専門的内容を学ぶ上での基礎となる数学、物理に関して前期とは異なる内容の知識・理解を深める。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、技術科に関する専門教育では、学習指導案の作成など、授業計画の立案の方法と意味等を学ぶとともに、技術科の教科内容に関する専門的な知識理解の基礎を構築する。 学校現場での体験活動を通して、学校現場の実際について、理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、技術科に関する専門教育では、各自が立てた授業計画に基づき、模擬授業を行い、自己評価及び相互評価を通して、今後の授業づくりの課題を探究し、かつ、技術科の教科内容に関する専門的な知識理解の基礎を構築しつつ発展的な内容について学ぶ。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、技術科に関する専門教育では、技術科の教科内容に関する専門的な知識の発展的な内容について学び、より専門的な理解を深める。 2年次までに習得した技術科の授業づくりに関する力量を、教育実習の事前指導等を通して確認・発展させながら、附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	技術科に関する教育学等の知見を参考にしつつ、教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、技術科の教科内容に関する専門的な知識の発展的な内容について学び、学術論文なども活用して、より専門的な理解を深め高度化させる。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、技術科に関する教育学及び教科の専門的な内容の進化を図りつつ、卒業研究を通してこれまで学んできた内容の活用及び更に発展した専門的内容の理解と活用を通して科学技術に関する理解を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、卒業研究を通してこれまで学んできた内容の活用及び更に発展した専門的内容の理解と活用を通して、技術科に関する教育学及び科学技術に関する理解を深め、論文の作成および研究内容の発表・質疑応答を通して論理的思考の強化を図る。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中学校 技術科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称			
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	金属加工概論		日本国憲法
		2 D		教育組織論	基礎製図		AI時代の情報
		1 A		技術科教育法 I	木材加工の基礎		スポーツ・フィットネス実習
	後期						英語コミュニケーションA
		2 C		教職入門	木材加工の応用 I	ものづくり・技術教育カリキュラム論	ウェルネス概論
		2 F		特別支援教育の理解			英語コミュニケーションB
1 A		技術科教育法 II					
2年次	前期	2 E		教育心理学	電気回路		
		3 H		道徳教育の指導法	栽培		
		1 A		技術科教育法 III	木材加工の応用 II		
	後期				情報処理概論		
		3 K		教育の方法とICT	機械工学の基礎	ものづくり・技術教育教材論	
		2 G		教育課程の理論と実践	応用情報処理 I		
1 A		技術科教育法 IV					
		3 M		教育相談の理論と方法	電子工学概論		ものづくり特別演習 I

3年次	前期	3	I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	機械工学A			
		3	L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法	応用情報処理Ⅱ			
		4		教育実習Ⅰ（B類）				
	後期				機械工学B			技術演習A
4年次	前期	4		教育実習Ⅱ（B類）				
	後期	4		教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免 家庭科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また教科内容については、衣服を構成する材料、衣服の着用など衣類全般に関わる基礎的な事項の理解や、収入と支出のバランスについて、収入に応じた暮らしを理解できるようにする。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また教科内容については、衣服の構造や縫製技術に関わる基本事項を理解するとともに、縫製の基本的技能を習得し、調理が献立作成から片付けまでおよぶことを知り、調理操作や食品の調理性を理解し、住居の機能や家族の生活と住空間の関わりについて基礎的な知識を習得する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、技術・家庭(家庭分野)の教育課程の概要を学び、学習指導案の基本的な構成について理解する。教科内容については、健全な衣生活のための衣服の取り扱いや基礎的理論を理解し、食品の成分の科学的な特徴を習得し、健康・安全な室内環境の整え方を理解する。さらに幼児の発達について基礎的な事項を理解し、生涯生活設計の観点から、子育て・教育費や住居購入等から、家庭経営の特徴を理解する。学校現場での体験活動を通して、学校現場の実際について、理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、技術・家庭(家庭分野)の教育課程の特徴を捉えた学習指導案の作成や教材提案(模擬授業)ができる。教科内容については衣服を文化的、科学的な側面から学習し、健康に過ごすために必要な栄養素の体内での働きを理解し、防災や事故防止など安全な住空間の整え方を理解し、発達理解をベースにした幼児とのかかわり方を理解して保育実習で生かせるようにする。そして、中学校の各領域の内容に関する学問研究の到達点をふまえ、家庭科で扱うべき教材内容を検討し、教材開発の能力を養う
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、技術・家庭(家庭分野)の学習指導について、学習指導案の作成や模擬授業を通して授業を構成することができる。教科内容については、衣生活に関する現代的な課題などを実験的に検証することで、衣服学習の役割を理解し、ライフステージの栄養について実習を通じて学び、家族の生活を考えた住空間の計画ができるようになり、保育をめぐる現代的な課題から、保育学習の役割を理解し、消費者問題の現状を理解できるとともに、悪質商法について理解する。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、技術・家庭(家庭分野)の学習指導について、教育実習の省察を踏まえた教材研究ならびに教材提案(模擬授業)ができるようになる。各領域内容の専門を学ぶために研究室に所属し、基礎的な文献を読む力を身につけ、研究課題を設定できるようにする。

4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。また、各領域で設定した研究課題に応じて研究計画を立て、研究を遂行し、論文を書けるようにする。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点課題を確認し、課題克服に務める。各領域で進めてきた研究を論文としてまとめ、発表できるようにする。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中学校 家庭科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	家庭経営学概論		日本国憲法	
		2 D		教育組織論	被服学概論		AI時代の情報	
							スポーツ・フィットネス実習	
							英語コミュニケーションA	
	後期	2 C			教職入門	被服構成学		ウェルネス概論
		2 F			特別支援教育の理解	調理学概論		英語コミュニケーションB
						住居学概論		
						食物学実験・実習A		
2年次	前期	2 E		教育心理学	児童学概論		児童福祉論	
		3 H		道徳教育の指導法	生活経営学			
		1 A		中等家庭科教育法Ⅰ	被服管理学			
					食品学			
	後期	3 K			教育の方法とICT	栄養学概論	家庭科教材論(B)	高齢者福祉論
		2 G			教育課程の理論と実践	乳幼児と生活Ⅰ		
		1 A			中等家庭科教育法Ⅱ	被服学実験・実習A		
						住環境論		

3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	消費生活論			
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	被服学実験・実習B			
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法	食物学実験・実習B			
		1 A	中等家庭科教育法Ⅲ	住居計画学			
		4	教育実習Ⅰ(B類)	乳幼児と生活Ⅱ			
3年次	後期	1 A	中等家庭科教育法Ⅳ	家族関係学	家庭科カリキュラム論(B)		家庭科演習
				看護・介護と生活			
4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)				
	後期	4	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免 英語科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、英語によるコミュニケーションスキルの向上を目指し、英語学、英米文化の基本的概念・理論を理解する。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、英語によるコミュニケーションスキルのさらなる向上を目指すとともに、英語学、英米文学文化の基本的概念・理論を修得する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、英語科の教育法の基礎基本や、英語学、英米文学分野の専門的事項に関する基礎的な内容を理解する。英語科の教育法については、特に、中学校英語科における目標設定とそれに基づく授業づくりの基礎的な考え方を理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、英語科の教育法の基礎基本や、英語学、英米文学分野の専門的事項に関する基礎的な内容についてさらに幅広く学び、理解を深める。英語科の教育法については、中学校英語科の内容を、英語研究の立場、教育的立場から考察し、教材研究に活用する方法を修得する。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、英語教育、英語学、英米文学・文化の各分野での現代の英語研究のより深い理論を理解する。それとともに、教育実習の事前指導および教育実習等を通して、学習指導案の作成や授業観察、省察の方法について修得する。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、英語教育、英語学、英米文学・文化の各分野における現代の英語研究のより深い理論を修得し、教材研究や授業計画に活用する。それとともに、中学校英語科のカリキュラムや英語教育学分野の研究について理解を深める。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、英語研究、英語教育の専門的内容を理解し、論理的に表現できるようにする。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、英語研究、英語教育の専門的知識を、自分のことばで表現し活用できるようにする。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：中学校 英語科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育の理念と歴史	英会話Ⅰ	英語科教材論	日本国憲法	
		2	D	教育組織論	英作文Ⅰ		AI時代の情報	
					英文法演習Ⅰ		スポーツ・フィットネス実習	
					英語読解Ⅰ		英語コミュニケーションA	
					英語音声学概論			
					イギリス文化概論			
	後期	2	C	教職入門	英会話Ⅱ	英語科カリキュラム論	ウェルネス概論	
		2	F	特別支援教育の理解	英作文Ⅱ		英語コミュニケーションB	
					英文法演習Ⅱ			
					英語読解Ⅱ			
				アメリカ文化概論				
2年次	前期	2	E	教育心理学	英米文学概論A	授業観察演習		
		3	H	道德教育の指導法	英会話Ⅲ			
		1	A	中等英語科教育法Ⅰ	英作文Ⅲ			
					現代英語学Ⅰ			
		3	K	教育の方法とICT	英米文学概論B			

	後期	2	G	教育課程の理論と実践	英会話Ⅳ			
		1	A	中等英語科教育法Ⅱ	英語史概論			
					現代英語学Ⅱ			
3年次	前期	1	A	中等英語科教育法Ⅲ	文法理論	第二言語習得		小学校英語教育演習Ⅰ
		3	M	教育相談の理論と方法	イギリス文学A	英語科と異文化理解		
		3	I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	近現代英語研究A			
		3	L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法				
		4		教育実習Ⅰ(B類)				
	後期	1	A	中等英語科教育法Ⅳ	英文法特論A			小学校英語教育演習Ⅱ
4年次	前期	4		教育実習Ⅱ(B類)				
	後期	4		教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 国語科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、高等学校国語科における近代文学、古典文学、中国古典の基礎的な知識を身に着けるとともに、日本語に関する文法等の概要および日本語教育の現状について学び、国語科全般に関する基礎を固める。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。また、文学史や中国古典、児童文学の作品研究、さらに日本語の音声・文字・語彙などについて学ぶとともに、外国につながる生徒へのマルチリンガル教育の視点も身につける。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、時代ごとの日本文学や中国古典研究、日本語の文法の詳細について演習形式で学んだり、児童文学研究や日本語教育の理論についての知識を深め、教育活動としての実践方法まで視野を広げる。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、時代ごとの日本文学の作品研究、日本語の諸側面について演習の形式で学んだり、言語文化としての現代文化や日本語教育の教材開発と活用についても知識を深めたりする。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、高等学校における国語科教育および日本語・日本文学、中国古典、日本語教育に関する専門的な知識を身に着け、実践的な教育活動に対応できる幅広い力を養う。附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た知識の活用方法について実践的に学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、高等学校国語科で必要とされる高い専門性を身に着ける。日本文学・中国古典学の文献研究や応用的な研究法や、日本語の音声の特徴についての学びや日本語教育の实地見学を行う。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、高等学校国語科における専門的知識や技能をさらに掘り下げる。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、高等学校国語科で求められる知識・技能をさらに錬磨し、生徒に還元できる教育実践方法を身につけるよう努める。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高等学校 国語科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	日本語学概論 I		日本国憲法	
		2 D		教育組織論	日本古典文学史		AI時代の情報	
					日本近代文学概論		スポーツ・フィットネス実習	
					日本古典文学概論		英語コミュニケーションA	
					中国古典文基礎			
					中国古典文学概論			
	後期	2 C		教職入門	日本語学概論 II		ウェルネス概論	
		2 F		特別支援教育の理解	日本近代文学史		英語コミュニケーションB	
					中国古典演習B			
2年次	前期	2 E		教育心理学	日本語文法	授業観察演習		
		1 A		中等国語科教育法 I	中国古典演習A			
					日本語学演習A			
					日本語学演習B			
					古典文学演習B			
					近代文学演習B			
		3 K		教育の方法とICT	古典文学演習A		現代文化論	

	後期	2 G	教育課程の理論と実践	近代文学演習A				
		1 A	中等国語科教育法Ⅱ					
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法		国語科カリキュラム論		研究法Ⅰ	
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法					
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法					
		1 A	中等国語科教育法Ⅲ					
		4	教育実習Ⅰ(B類)					
	後期	1 A	中等国語科教育法Ⅳ	日本語音声	国語科教材論		研究法Ⅱ	
				文献講読Ⅰ				
				文献講読Ⅱ				
	4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)				
		後期	4	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 地理歴史科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、高等学校地理歴史科の内容を指導するために必要となる教科に関する専門的事項のうち、日本史、人文地理学・自然地理学について一般的包括的な内容を学ぶ。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、高等学校地理歴史科の内容を指導するために必要となる教科に関する専門的事項のうち、外国史について一般的包括的な内容を学ぶ。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、高等学校地理歴史科の内容を指導するために必要となる自然地理学に係る一般的包括的内容を含む教科に関する専門的事項を学ぶ。あわせて、高等学校地理歴史科の内容への理解を深めるためにより専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、高等学校地理歴史科の指導法のうち、学習指導案の作成を含めた基礎的な部分を学ぶ。あわせて、高等学校地理歴史科の内容を指導するために必要となる地誌に係る一般的包括的内容を含む教科に関する専門的事項を学び、同時に、高等学校地理歴史科の内容への理解を深めるためにより専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、高等学校地理歴史科の指導法のうち、模擬授業を含めた発展的な内容を学ぶ。あわせて、高等学校地理歴史科の内容への理解を深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、高等学校地理歴史科の内容への理解を深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、高等学校地理歴史科の内容への理解をより深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と加地あを確認し、課題克服に務める。 また、高等学校地理歴史科の内容への理解をより深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 地理歴史科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	日本史概論A～D		日本国憲法	
		2 D		教育組織論	地理学概論		AI時代の情報	
							スポーツ・フィットネス実習	
	後期						英語コミュニケーションA	
		2 C		教職入門	外国史概論A～D		ウェルネス概論	
		2 F		特別支援教育の理解	自然環境		英語コミュニケーションB	
2年次	前期	2 E		教育心理学	歴史学文献講読B	社会科カリキュラム論		
					歴史学概論			
					外国史研究と歴史教育B			
					日本史研究A			
					人文地理学研究			
					外国史研究C			
	後期	3 K		教育の方法とICT	地誌学概論			
		2 G		教育課程の理論と実践	自然地理学研究			
		1 A		中等社会科・地理歴史科教育法 I	日本史研究B			

	後期				日本史研究C			
					歴史学基礎演習B			
					外国史研究と歴史教育A			
					日本史研究と歴史教育B			
					地理情報と地図			
3年次	前期	3	M	教育相談の理論と方法				日本史演習E I
		3	I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				
		3	L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法				
		1	A	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ				
		4		教育実習Ⅰ(B類)				
	後期				社会科教材論			日本史演習EⅡ
4年次	前期	4		教育実習Ⅱ(B類)				日本史演習FⅠ
	後期	4		教職実践演習				日本史演習FⅡ

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 公民科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、高等学校公民科の内容を指導するために必要となる教科に関する専門的事項のうち、社会学、経済学について一般的包括的な内容を学ぶ。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、高等学校公民科の内容を指導するために必要となる教科に関する専門的事項のうち、哲学、倫理学、宗教学、法律学、政治学について一般的包括的な内容を学ぶ。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、高等学校公民科の指導法のうち、学習指導案の作成を含めた基礎的な部分を学び、あわせて高等学校公民科の内容への理解を深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 あわせて、高等学校公民科の内容への理解を深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、高等学校公民科の内容への理解を深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、高等学校公民科の指導法のうち、模擬授業を含めた発展的な内容を学び、あわせて、高等学校公民科の内容への理解を深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、高等学校公民科の内容への理解をより深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と加地あを確認し、課題克服に務める。 また、高等学校公民科の内容への理解をより深めるため、より専門的な教科に関する専門的事項も学ぶ。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 公民科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	経済学概論		日本国憲法	
		2 D		教育組織論	社会学概論		AI時代の情報	
							スポーツ・フィットネス実習	
	後期	2 C		教職入門	法学概論		ウェルネス概論	
		2 F		特別支援教育の理解	政治学概論		英語コミュニケーションB	
					哲学・倫理学・宗教学概論			
2年次	前期	2 E		教育心理学	民法A	社会科カリキュラム論		
		1 A		中等社会科・公民科教育法 I	国際関係論			
					宗教思想基礎資料講読			
					哲学基礎資料講読			
					刑法A			
				家族社会学				
		3 K		教育の方法とICT	宗教思想史			
	2 G		教育課程の理論と実践	哲学史				

	後期			民法B			
				政治制度論			
				ジェンダーの社会学			
				刑法B			
3年次	前期	3	M	教育相談の理論と方法	宗教思想の諸問題		経済学演習A I
		3	I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	哲学・倫理学の諸問題		
		3	L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法	経済学応用論		
		4		教育実習 I (B類)			
	後期	1	A	中等社会科・公民科教育法 II		社会科教材論	経済学演習A II
4年次	前期	4		教育実習 II (B類)			
	後期	4		教職実践演習			

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 数学科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、数学における論理的な記述表現の方法、基本的な線形代数、微積分の理論を理解する。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、数学において基本的な概念である線形代数、微積分の理論を修得する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、基礎的な数学の内容である代数学、幾何学、解析学、確率論、統計学、位相の分野及びコンピュータの概念を理解する。それとともに、高等学校数学科における目標とそれに基づく授業づくりの基礎的な考え方を理解する。 学校現場での体験活動を通して、学校現場の実際について、理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、基礎的な数学の内容である代数学、幾何学、解析学、確率論、統計学、位相の分野の理論を修得する。さらに、高等学校数学科の内容を数学的立場、教育的立場から考察し、教材研究に活用する方法を修得するとともに、授業を行う準備・実施を通じて、指導案作成や授業設計を行う方法を身につける。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、代数学、幾何学、解析学、確率論の各分野での現代数学のより深い理論を理解する。さらに、教育実習の事前指導及び附属学校での教育実習等を通して、学習指導案の作成や授業観察、省察の方法について修得するとともに、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、代数学、幾何学、解析学、確率の各分野での現代数学のより深い理論を修得する。それとともに、高等学校数学科のカリキュラムや数学教育学における研究について理解を深める。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、数学、数学教育の専門的内容を論理的に理解し、表現できるようにする。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、数学、数学教育の専門的知識を、自分の言葉で表現し活用できるようにする。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 数学科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	集合と論理		日本国憲法	微分・積分学Ⅰ	
		2 D		教育組織論			AI時代の情報	線形数学Ⅰ	
							スポーツ・フィットネス実習	微分・積分学演習Ⅰ	
							英語コミュニケーションA	線形数学演習Ⅰ	
	後期	2 C			教職入門			ウェルネス概論	微分・積分学Ⅱ
		2 F			特別支援教育の理解			英語コミュニケーションB	線形数学Ⅱ
									微分・積分学演習Ⅱ
									線形数学演習Ⅱ
2年次	前期	2 E		教育心理学	解析学Ⅰ				
		1 A		中等数学科教育法Ⅰ	代数学Ⅰ				
					幾何学Ⅰ				
					確率・統計Ⅰ				
					位相数学				
	後期	3 K			教育の方法とICT	解析学Ⅱ	数学科教材論		
2 G				教育課程の理論と実践	代数学Ⅱ				

	後期	1 A	中等数学科教育法Ⅱ	幾何学Ⅱ			
				確率・統計Ⅱ			
				位相空間論			
				コンピュータ概論			
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	解析学特論AⅠ			数学科教育臨床
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	解析学特論BⅠ			
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法	代数学特論AⅠ			
		1 A	中等数学科教育法Ⅲ	幾何学特論AⅠ			
		4	教育実習Ⅰ(B類)				
	後期	1 A	中等数学科教育法Ⅳ	解析学特論AⅡ	数学カリキュラム論		数学教育研究
				解析学特論BⅡ			
				代数学特論AⅡ			
				幾何学特論AⅡ			
				確率論特論Ⅱ			
4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)				
	後期	4	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 理科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、物理・化学・生物・地学4分野全ての基礎的な知識及び実験の技法等を学び、高等学校理科を指導する上で不可欠な教科専門の基本的事項を俯瞰し、体系立てて身につける。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、引き続き、物理・化学・生物・地学4分野全ての基礎的な知識及び実験の技法等を学び、高等学校理科を指導する上で不可欠な教科専門の基本的事項を俯瞰し、体系立てて身につける。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、物理・化学・生物・地学のうち各自が専攻する分野についての高度な専門的知識・技能を系統的に習得する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、引き続き、物理・化学・生物・地学のうち各自が専攻する分野についての高度な専門的知識・技能を系統的に習得し、教材研究、学習指導案作成及び模擬授業等を通して高等学校理科を指導する方法についても学習する。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、専攻分野に関する最前線の研究活動に加わり、教科専門のさらに高度な知識・技能を習得するとともに、高等学校理科の指導法について専門的な観点から学び、教科専門を背景とした学習指導案の作成や授業準備ができるようにする。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、研究室での活動を通し、専攻分野に関する最前線の学びを深めるとともに、専門性が伴う高等学校理科の教材研究、学習指導案作成の能力を高め、教科専門を背景とした授業研究により授業を改善していく力を身につける。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、専攻分野に関する研究を具体的に進め、自らの考えを検証し、自然科学的な手法を実践する。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、専攻分野に関する研究を仕上げ、研究論文をまとめ、発表できるようにする。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高等学校 理科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	物理学実験		日本国憲法		
		2 D		教育組織論	生物学実験		AI時代の情報		
						物理学概論I		スポーツ・フィットネス実習	
						化学概論 I		英語コミュニケーションA	
						生物学概論 I			
						地学概論 I			
	後期	2 C			教職入門	化学実験		ウェルネス概論	
		2 F			特別支援教育の理解	地学実験		英語コミュニケーションB	
						物理学概論II			
						化学概論 II			
						生物学概論 II			
						地学概論 II			
2年次	前期	2 E		教育心理学	力学 I	授業観察演習			
					電磁気学 I	理科カリキュラム教材開発基礎A			
					数理物理学 I	理科カリキュラム教材開発基礎B			
			3 K		教育の方法とICT	力学 II			

	後期	2 G	教育課程の理論と実践	電磁気学Ⅱ			
		1 A	中等理科教育法Ⅰ	相対性理論			
					数理物理学Ⅱ		
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	量子力学Ⅰ			専修物理学実験A
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	熱力学			
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法	統計力学			
		1 A	中等理科教育法Ⅱ				
		4	教育実習Ⅰ(B類)				
	後期	1 A	中等理科教育法Ⅲ	量子力学Ⅱ			専修物理学実験B
		1 A	中等理科教育法Ⅳ	物性物理学			
4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)				
	後期	4	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 音楽科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、高等学校音楽科の指導目的・内容・教材・方法の基本的内容を理解する。学習指導要領、学習指導案の作成について学ぶ。音楽科の指導に必要な音楽の基礎知識を学び、歌唱、演奏技能の基本を身につける。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、高等学校音楽科の器楽の学習指導、教材について検討し、ピアノ伴奏や弾き歌いの基礎を学ぶ。音楽科の指導に必要な知識についてさらに理解を深め、歌唱、演奏技能の基礎を固める。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、高等学校音楽科での創作や鑑賞の指導に必要な方法を学び、指導案の作成や模擬授業を行う。音楽科の指導に必要な指揮法や邦楽歌唱法も身につけ、さらに1年次に身に付けた歌唱、演奏技能を高める。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、高等学校音楽科でとりあげる和楽器やリコーダーアンサンブルに関する教材を実践的に扱い、音楽科の指導に必要な知識をさらに広げる。これまで身に付けた歌唱、演奏技能を高度に発展させる。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、大規模な合奏について実践的に学ぶ等、高等学校での様々な音楽活動に対応できる幅広い力を養う。音楽科の指導に必要な専門的技術を掘り下げて学ぶ。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 更に、音楽科で重視されている現代的教育課題や日本の伝統的音楽に関して、発展的な内容を学ぶことにより、教師に今後必要とされる資質能力を身に着ける。 また、高等学校音楽科で必要とされる知識をさらに深く学び、専門的技術をさらに掘り下げる。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、高等学校音楽科で必要となる知識・技能をさらに錬磨し、自家薬籠中のものとなるよう努める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 音楽科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	基礎音楽実技 I		日本国憲法	音楽学基礎研究A	
		2 D		教育組織論	基礎ピアノ実技 I		AI時代の情報		
		1 A		中等音楽科教育法 I	基礎管弦打実技 I		スポーツ・フィットネス実習		
						作曲法 I		英語コミュニケーションA	
						音楽学概論A			
						合唱			
	後期	2 C			教職入門	基礎音楽実技 II		ウェルネス概論	
		2 F			特別支援教育の理解	基礎ピアノ実技 II		英語コミュニケーションB	
		1 A			中等音楽科教育法 II	基礎管弦打実技 II			
						作曲法 II			
						音楽学概論B			
						ソルフェージュ II			
	前期	2 E			教育心理学	基礎音楽実技 III			
1 A				中等音楽科教育法 III	基礎ピアノ実技 III				
					基礎管弦打実技 III				

2年次				指揮法				
				邦楽歌唱法B				
	後期	3 K	教育の方法とICT	基礎声楽実技IV	音楽科教材論B			
		2 G	教育課程の理論と実践	基礎ピアノ実技IV				
		1 A	中等音楽科教育法IV	基礎管弦打実技IV				
				和楽器B				
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	オーケストラ			ピアノ実技 I	
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				民族音楽演習A	
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法					
		4	教育実習 I (B類)					
	後期			音楽学概論C	音楽科カリキュラム論B			ピアノ実技 II
								音楽療法概説
								音楽教育特別研究B
	4年次	前期	4	教育実習 II (B類)				
後期		4	教職実践演習					

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 美術科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、高等学校における美術科の基礎として、絵画、彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞の各領域を包括的に学び、美術科における教材としての可能性について理解を深める。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、高等学校における美術科としての絵画、彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞の各領域の基礎的知識や技能について包括的に理解を深め、美術科教師として必要とされる教材観や題材観について考察する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、学習指導要領における美術科の目標及び育成を目指す資質・能力、主な内容について理解し、各領域の知識や技能等の専門性について学びながら、美術科の全体構造を理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、美術科と背景となる学問領域との関係を理解し、各領域の知識や技能等の専門性を高めて教材研究に活用するとともに、学習内容の指導上の留意点や学習評価の考え方について理解を深める。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、学習指導案の構成を理解し、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けながら、美術科の具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、美術科における実践研究の動向を知り、発展的な学習内容について探求し、学習指導への位置付けを考察しながら、授業設計の向上に取り組むことができる。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と加地あを確認し、課題克服に務める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 美術科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	絵画基礎Ⅰ	美術科教育演習Ⅰ	日本国憲法	工芸基礎Ⅰ	
		2 D		教育組織論	彫刻基礎Ⅰ		AI時代の情報		
					デザイン基礎Ⅰ			スポーツ・フィットネス実習	
								英語コミュニケーションA	
	後期	2 C		教職入門	絵画基礎Ⅱ	美術科教育演習Ⅱ	ウェルネス概論	工芸基礎Ⅱ	
		2 F		特別支援教育の理解	彫刻基礎Ⅱ		英語コミュニケーションB		
					デザイン基礎Ⅱ				
					西洋美術史概論				
2年次	前期	2 E		教育心理学	絵画演習A	美術科教育演習Ⅲ		美術演習AⅠ	
		1 A		中等美術科教育法Ⅰ	彫刻演習A				
					デザイン演習A				
					日本東洋美術史概論				
					現代美術史概論				
	後期	3 K		教育の方法とICT	絵画演習B	美術科教材論		美術演習AⅡ	
		2 G		教育課程の理論と実践	絵画演習C				
		1 A		中等美術科教育法Ⅱ	彫刻演習B				

				デザイン演習B			
				美術史実地研修			
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法				美術演習B I
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法				
		1 A	中等美術科教育法Ⅲ				
	4	教育実習Ⅰ(B類)					
	後期	1 A	中等美術科教育法Ⅳ	美学	美術科カリキュラム論		美術演習BⅡ
4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)				
	後期	4	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 工芸科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、高等学校における工芸科の基礎として、デザイン、工芸、鑑賞の各領域を包括的に学び、工芸科における教材としての可能性についても理解を深める。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、高等学校における工芸科としてのデザイン、工芸、鑑賞の各領域の基礎的知識や技能について包括的に理解を深め、工芸科教師として必要とされる教材観や題材観について考察する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、学習指導要領における工芸科の目標及び育成を目指す資質・能力、主な内容について理解し、各領域の知識や技能、材料や用具等の専門性について学びながら、工芸科の全体構造を理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、工芸科と背景となる学問領域との関係を理解し、各領域の専門性を高めて教材研究に活用するとともに、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けながら、工芸科の具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と加地あを確認し、課題克服に務める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 工芸科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	デザイン基礎Ⅰ	美術科教育演習Ⅰ	日本国憲法	絵画基礎Ⅰ	
		2 D		教育組織論	工芸基礎Ⅰ		AI時代の情報	彫刻基礎Ⅰ	
								スポーツ・フィットネス実習	
								英語コミュニケーションA	
	後期	2 C			教職入門	デザイン基礎Ⅱ	美術科教育演習Ⅱ	ウェルネス概論	絵画基礎Ⅱ
		2 F			特別支援教育の理解	工芸基礎Ⅱ		英語コミュニケーションB	彫刻基礎Ⅱ
					図法・製図			西洋美術史概論	
2年次	前期	2 E		教育心理学	デザイン演習A	美術科教育演習Ⅲ		美術演習AⅠ	
		1 A		中等工芸科教育法Ⅰ	工芸演習A				
						工芸演習B			
						日本東洋美術史概論			
						工芸・デザイン理論			
	後期	3 K			教育の方法とICT	デザイン演習B	美術科教材論		美術演習AⅡ
		2 G			教育課程の理論と実践	工芸演習C			
		1 A			中等工芸科教育法Ⅱ	工芸演習E			
					生産工芸実地研修				

3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法				美術演習B I
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法				
		4	教育実習 I (B類)				
	後期				美術科カリキュラム論		美術演習B II
4年次	前期	4	教育実習 II (B類)				
	後期	4	教職実践演習				

様式第7号ウ

<学校教育教員養成課程> (認定課程: 高一種免 書道科)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、書道の漢字の書においては楷書の古典、仮名の書においては基礎的な古筆を取り上げ、基礎的な知識と技能を身に付ける。また、漢字仮名交じりの書の構想と表現の工夫などの制作過程について理解を深める。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、中国を中心とする書の歴史について理解を深めるとともに、篆刻・刻字の基礎的な知識と技能を学ぶ。また、書道のカリキュラムや指導計画の作成について理解する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、日本を中心とする書の歴史について理解を深めるとともに、漢字の書の行草の古典について学ぶ。また、書道の学習指導要領について理解を深め、学習指導計画の作成と授業実践の基礎を学ぶ。 学校現場での体験活動を通して、学校現場の実際について、理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、書の鑑賞や書論について、基礎的な内容を理解するとともに、書論・書道史や書写書道教育の研究手法の基礎を学ぶ。仮名の書の発展的な古典を学び、表現の技能を高める。書道の授業における教材作成の方法について理解を深める。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、書道の授業の学習指導案の作成と評価について理解を深め、模擬授業を通して実践力を身に付ける。書学・書道史や書道教育の研究の実際、作品の制作方法について理解を深める。附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、書学・書道史や書写書道教育について、各自が課題意識をもって研究を深めるとともに、指導のための実践力を高める。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 書道科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	漢字研究A		日本国憲法	書道専攻入門セミナー
		2 D		教育組織論	仮名研究A		AI時代の情報	
					漢字仮名交じり研究A		スポーツ・フィットネス実習	
					中国古典文基礎		英語コミュニケーションA	
					中国古典文学概論			
					日本古典文学史			
	後期	2 C		教職入門	書道史研究A	書道科カリキュラム論	ウェルネス概論	
		2 F		特別支援教育の理解	篆刻・刻字		英語コミュニケーションB	
					日本近代文学史			
	2年次	前期	2 E		教育心理学	漢字研究B	授業観察演習	
1 A				書道科教育法Ⅰ	書道史研究B			
後期		3 K		教育の方法とICT	仮名研究B	書道科教材論		
		2 G		教育課程の理論と実践	書論・鑑賞研究Ⅰ			
		1 A		書道科教育法Ⅱ	書学Ⅰ			
		3 M		教育相談の理論と方法	書学・書作品制作演習			

3年次	前期	3	I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	書論・鑑賞研究Ⅱ			
		3	L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法	書論・鑑賞研究Ⅲ			
		4		教育実習Ⅰ（B類）				
	後期				書学Ⅱ			
						書作品制作研究		
4年次	前期	4		教育実習Ⅱ（B類）				
	後期	4		教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 保健体育科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、体育学の基礎的内容や体育実技を通して、運動・スポーツに対する興味関心を喚起し、高等学校保健体育教員になる意欲を醸成する。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、保健に関する知識を習得し、スポーツ心理学について学ぶことで、思春期の生徒に対する授業内外での対応の具体的方策について理解する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、中等保健体育科教育法で保健体育授業の目標、内容、方法について学ぶ。GIGAスクール構想を念頭に置き、ICT機器を活用した模擬授業を実施する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、運動学や体育学などのエビデンスを活用して指導案を作成し、模擬授業を繰り返し実施して教育実習前に実践的に学ぶ。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、中等保健体育科教育法では、映像で授業を視聴したり、学生間でディスカッションすることで、具体的な生徒の姿を想起して指導案作成、模擬授業を行う。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、教職実践演習で、教科教育、教科専門について改めて学ぶことで、高等学校保健体育教員としての自覚を涵養するとともに、これまでの学びの成果と課題を整理する。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 保健体育科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	器械運動B		日本国憲法	
		2 D		教育組織論	陸上B		AI時代の情報	
					水泳B		スポーツ・フィットネス実習	
					体づくり運動B		英語コミュニケーションA	
					体育原理B			
					体育史			
					解剖生理学			
	後期	2 C		教職入門	ダンス		ウェルネス概論	スキー
		2 F		特別支援教育の理解	サッカーB		英語コミュニケーションB	
					体育・スポーツ心理学			
					学校保健学B			
					学校安全・救急処置			
	前期	2 E		教育心理学	ソフトボールB	遊びと発育・発達		野外環境教育学実習
		1 A		中等保健体育科教育法 I	柔道B	授業観察演習		野外環境教育学
				運動生理学B			インクルーシブスポーツ	
				スポーツバイオメカニクス			ダイバーシティスポーツ	

2年次				衛生・公衆衛生学B			体育科学学習評価論	
							教科教育・特活指導計画論	
	後期	3 K	教育の方法とICT	バスケットボールB	保健体育科教材研究B		スポーツ動作分析法	
		2 G	教育課程の理論と実践	ラグビー			体育・スポーツ統計学	
		1 A	中等保健体育科教育法Ⅱ	ハンドボール			保健体育科模擬授業演習B	
		1 A	中等保健体育科教育法Ⅲ	バレーボールB				
					剣道B			
					運動方法学総論B			
				体育・スポーツ社会学				
			体育・スポーツ経営学					
3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	体育科指導演習	保健体育科カリキュラム開発論B		保健体育・スポーツ専門英語演習	
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	学校部活動総論			保健体育科研究法B	
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法					
		1 A	中等保健体育科教育法Ⅳ					
		4	教育実習Ⅰ(B類)					
	後期			体育理論			ラケットスポーツ	
4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)					
	後期	4	教職実践演習					

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 保健科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、体の仕組みについて学び、保健科を教えるための基礎的知識を身に着ける。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、学校保健や子供の安全についての基礎的事項を学ぶ。さらに生体の機能や、疾病の予防に関する社会の仕組みについての理解を深める。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、感染の仕組みや薬の作用について学び、保健科の授業を組み立てるための基礎的知識を身に着ける。さらに学校における安全面や危機管理について学ぶことで、保健科における安全教育の基礎についての理解を深める。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、栄養に関する知識や小児の特性、精神に係る知識を学ぶことで保健を教えるための具体的な知識を身に着ける。そして学校保健や衛生管理について、マネジメントしていくための知識を身に着ける。さらに学習指導要領を構造的に理解することで具体的な指導案の作成等の基礎となる知識を身に着ける。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、救急処置についての知識と教えるための実践的な技術を身に着け、保健を教えるための具体的な技術を身に着ける。そして、健康教育の教材についての理解を深め、グループで保健科の指導案や教材作成を行うことで、保健科の模擬授業を実施するための知識・技能を身に着ける。附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、また、一人で高等学校の保健科の指導案並びに資料を作成し、模擬授業を実施することで、実践力を身に着ける。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、3年時とは別の内容の高等学校の保健科の指導案と資料を作成し、実際の高等学校と同じ時間を用いて模擬授業を行うことで、実践力を高める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 保健科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	解剖学		日本国憲法	
		2 D		教育組織論			AI時代の情報	
							スポーツ・フィットネス実習	
							英語コミュニケーションA	
	後期	2 C			教職入門	生理学	教職基礎としての子供の安全	ウェルネス概論
		2 F			特別支援教育の理解	衛生・公衆衛生学		英語コミュニケーションB
						学校保健学A		
						学校保健学		
2年次	前期	2 E		教育心理学	感染免疫学	養護活動カリキュラム論	児童福祉論	
					薬理学			
					学校安全と危機管理			
	後期	3 K			教育の方法とICT	健康と栄養	学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル	地域福祉論 I
		2 G			教育課程の理論と実践	保健行動科学		
		1 A			中等保健科教育法 I	精神保健		
						小児科学		
			3 M		教育相談の理論と方法	救急処置の理論と演習	健康教育教材論	

3年次	前期	3	I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				
		3	L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法				
		1	A	中等保健科教育法Ⅱ				
		4		教育実習Ⅰ（B類）				
	後期	1	A	中等保健科教育法Ⅲ				スクールソーシャルワーク論
4年次	前期	1	A	中等保健科教育法Ⅳ				
		4		教育実習Ⅱ（B類）				
	後期	4		教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 家庭科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、教科内容については、衣服を構成する材料、衣服の着用など衣服全般に関わる基本的事項を理解し、収入と支出のバランスについて、可処分所得や黒字等の基礎用語を理解できるとともに、子育て・教育費や住居購入等について基礎知識を習得する。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、衣服の縫製の基本的技能を習得し、和・洋・中の基礎調理と食品の調理性を学び、住居の機能や歴史的変遷、生活と住空間の関わりについて基礎的な知識を習得する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、高等学校家庭科の教育課程の概要を学び、学習指導案の基本的な構成について理解し、健全な衣生活のための衣服の取り扱いや基礎的理論を理解し、健康・快適・安全な住環境の整備について理解する。乳幼児の発達、子育て支援について基本的な事項を理解し生涯生活設計の観点から、子育て・教育費や住居購入等について各々の世代の家庭経営の特徴を理解する。学校現場での体験活動を通して、学校現場の実際について、理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、高等学校家庭科の教育課程の特徴を捉えた学習指導案の作成や教材提案(模擬授業)ができる。教科内容については、豊かな衣生活のために実験を通じて衣生活の諸現象を理解し、健康に過ごすために必要な栄養素の体内での働きを理解し、健康に過ごすために必要な栄養素の体内での働きを理解し、発達理解をベースにした乳幼児保のかかわり方を理解し、保育実習で生かせる。そして、高等学校の各領域の内容に関する学問研究の到達点をふまえ、家庭科で扱うべき教材内容を検討し、教材開発の能力を養う。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、高等学校家庭科の学習指導について、学習指導案の作成や模擬授業を通して授業を構成することができる。教科内容については、衣生活に関する現代的な課題などを実験的に検証することで、衣服学習の役割を理解し、日本と世界の食文化、食の安心・安全、食と環境、健康な食生活について学び、ライフスタイルに合わせた住空間の計画ができるようになる。保育をめぐる現代的な課題から、保育学習の役割を理解し、消費者問題の歴史と現状を理解できるとともに、18歳が成人として保護者の承諾を得ずに契約の主体となることを理解できるようにする。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、高等学校家庭科の学習指導について、教育実習の省察を踏まえた教材研究ならびに教材提案(模擬授業)ができるようになる。各領域内容の専門を学ぶために研究室に所属し、基礎的な文献を読む力を身につけ、研究課題を設定できるようにする。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、各領域で設定した研究課題に応じて研究計画を立て、研究を遂行し、論文を書けるようにする。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。各領域で進めてきた研究を論文としてまとめ、発表できるようにする。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 家庭科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	家庭経営学概論		日本国憲法	
		2 D		教育組織論	被服学概論		AI時代の情報	
							スポーツ・フィットネス実習	
							英語コミュニケーションA	
	後期	2 C			教職入門	被服構成学		ウェルネス概論
		2 F			特別支援教育の理解	調理学概論		英語コミュニケーションB
						住居学概論		
						食物学実験・実習A		
2年次	前期	2 E		教育心理学	児童学概論		児童福祉論	
		1 A		中等家庭科教育法Ⅰ	生活経営学			
					被服管理学			
					食品学			
	後期	3 K			教育の方法とICT	栄養学概論	家庭科教材論(B)	高齢者福祉論
		2 G			教育課程の理論と実践	乳幼児と生活Ⅰ		
		1 A			中等家庭科教育法Ⅱ	被服学実験・実習A		
						住環境論		

3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	消費生活論			
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	被服学実験・実習B			
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法	食物学実験・実習B			
		1 A	中等家庭科教育法Ⅲ	住居計画学			
		4	教育実習Ⅰ(B類)	乳幼児と生活Ⅱ			
	後期	1 A	中等家庭科教育法Ⅳ	家族関係学	家庭科カリキュラム論(B)		家庭科演習
				看護・介護と生活			
				家庭電気・機械・情報処理			
	4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)			
後期		4	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 情報科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、情報科の「コンピュータとプログラミング」の分野に関係する基礎的知識や技法を修得する。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、情報科の「コンピュータとプログラミング」の分野に関係する応用的知識や技法を修得する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。 また、情報科の「情報社会の問題解決」の分野の基盤となる知識や考え方、及び、「データ活用」の分野に関係する基礎的な知識と技法を修得する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、情報科の「コミュニケーションと情報デザイン」及び「情報通信ネットワーク」の分野に関係する基礎的知識と技法を修得する。さらに、情報科教育法についての基礎知識や技法を修得すると共に、学習指導案作成や模擬授業の実施を通して、実践的な技能を身に付ける。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、これまで修得してきた情報科の分野の知識や技法を活かし、情報システム等の制作による実践的な技法を修得する。さらに、情報科教育法についての応用知識や技法をより高度な水準で修得すると共に、附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、情報科の「データ活用」の分野に関係する応用的知識と技法を修得する。さらに、情報科教育のカリキュラム全体を通じた、授業の設計や評価についての専門的知識を修得する。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	4年間の集大成として、これまでの情報科教員になるための学びとその成果について省察する。自らの成果、到達点と価値を確認し、課題克服に務める。 また、4年間での学びを通じた経験を、今後、情報科教員になったときにどのように生かしていくかについて議論し、教員に対する考え方や態度等について総括する。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 情報科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	コンピュータシステム概論		日本国憲法	基本解析学Ⅰ
		2 D		教育組織論	プログラミングⅠ		AI時代の情報	基本代数学Ⅰ
					プログラミング演習Ⅰ		スポーツ・フィットネス実習	数理・データサイエンスⅠ
							英語コミュニケーションA	
	後期	2 C		教職入門	プログラミングⅡ	教育の情報化基礎	ウェルネス概論	基本代数学Ⅱ
		2 F		特別支援教育の理解	プログラミング演習Ⅱ		英語コミュニケーションB	数理・データサイエンスⅡ
				オートマトンと形式言語			基本情報数学	
2年次	前期	2 E		教育心理学	情報社会と情報倫理	授業観察演習		応用プログラミング
					計算機ハードウェア	情報科教育教材論		基本幾何学Ⅰ
					マルチメディア情報解析	学校におけるプログラミング教育		
					データベース			
	後期	3 K		教育の方法とICT	情報社会と職業			数値計算
		2 G		教育課程の理論と実践	オペレーティングシステム			基本幾何学Ⅱ
		1 A		情報科教育法Ⅰ	プログラム言語論とコンパイラ			基本解析学Ⅱ
					HCI			
					情報メディア			

3年次	前期	3 M	教育相談の理論と方法	情報システム			情報科学教育演習A	
		3 I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	知識処理と人工知能				
		3 L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法	データ分析とコンピュータ				
		1 A	情報科教育法Ⅱ					
		4	教育実習Ⅰ(B類)					
	後期				ネットワークシステム	情報科教育カリキュラム論		情報科学教育演習B
					計測と制御			
					システムプログラミング			
	4年次	前期	4	教育実習Ⅱ(B類)				
後期		4	教職実践演習					

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 工業科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、工業科の初歩的な内容及び専門的内容を学ぶ上での基礎となる数学、物理に関する知識・理解を深める。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体の職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、工業科の初歩的な内容及び専門的内容を学ぶ上での基礎となる数学、物理に関して前記とは異なる内容の知識・理解を深める。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、工業科の教科内容に関する専門的な知識理解の基礎を構築する。 学校現場での体験活動を通して、学校現場の実際について、理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、工業科の教科内容に関する専門的な知識理解の基礎を構築しつつ発展的な内容について学ぶ。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、工業科に関する専門教育では、高等学校学習指導要領等に基づき教科の制度上の仕組みを学とともに、教科内容に関する専門的な知識の発展的な内容について学び、より専門的な理解を深める。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、工業科に関する専門教育では、授業計画の立案と模擬授業等を通して教科運営の基礎・基本を学とともに、学術論文などを活用し工業科の教科内容に関する専門的な知識の発展的な内容について学び、より専門的な理解を深め高度化させる。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、工業科に関する教育学と教科の専門的な内容の進化及び卒業研究を通してこれまで学んできた内容の活用及び更に発展した専門的内容の理解と活用を通して科学技術に関する理解を深める。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と加地あを確認し、課題克服に務める。 また、卒業研究を通してこれまで学んできた内容の活用及び更に発展した専門的内容の理解と活用を通して、技術・職業教育学と科学技術に関する理解を深め、論文の作成および研究内容の発表・質疑応答を通して論理的思考の強化を図る。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高等学校 工業科）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称			
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	金属加工概論		日本国憲法
		2 D		教育組織論	基礎製図		AI時代の情報
					木材加工の基礎		スポーツ・フィットネス実習
							英語コミュニケーションA
	後期	2 C		教職入門	木材加工の応用 I	ものづくり・技術教育カリキュラム論	ウェルネス概論
		2 F		特別支援教育の理解			英語コミュニケーションB
2年次	前期	2 E		教育心理学	電気回路		
					情報処理概論		
					木材加工の応用 II		
	後期	3 K		教育の方法とICT	機械工学の基礎	ものづくり・技術教育教材論	
		2 G		教育課程の理論と実践	応用情報処理 I		
3年次	前期	3 M		教育相談の理論と方法	電子工学概論		ものづくり特別演習 I
		3 I、J		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	応用情報処理 II		
		3 L、N		生徒指導・進路指導の理論と方法	青年期の職業指導		
		1 A		工業科教育法 I	機械工学A		

		4		教育実習Ⅰ(B類)				
	後期	1	A	工業科教育法Ⅱ	工業技術			技術演習A
					機械工学B			
4年次	前期	4		教育実習Ⅱ(B類)				
	後期	4		教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免 英語科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、英語によるコミュニケーションスキルの向上を目指し、英語学、英米文化の基本的概念・理論を理解する。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、英語によるコミュニケーションスキルのさらなる向上を目指すとともに、英語学、英米文学文化の基本的概念・理論を修得する。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、英語科の教育法の基礎基本や、英語学、英米文学分野の専門的事項に関する基礎的な内容を理解する。英語科の教育法については、特に、高等学校英語科における目標設定とそれに基づく授業づくりの基礎的な考え方を理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、英語科の教育法の基礎基本や、英語学、英米文学分野の専門的事項に関する基礎的な内容についてさらに幅広く学び、理解を深める。英語科の教育法については、高等学校英語科の内容を、英語研究の立場、教育的立場から考察し、教材研究に活用する方法を修得する。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、英語教育、英語学、英米文学・文化の各分野での現代の英語研究のより深い理論を理解する。それとともに、教育実習の事前指導および教育実習等を通して、学習指導案の作成や授業観察、省察の方法について修得する。 附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、英語教育、英語学、英米文学・文化の各分野における現代の英語研究のより深い理論を修得し、教材研究や授業計画に活用する。それとともに、高等学校英語科のカリキュラムや英語教育学分野の研究について理解を深める。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、英語研究、英語教育の専門的内容を理解し、論理的に表現できるようにする。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、英語研究、英語教育の専門的知識を、自分のことばで表現し活用できるようにする。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：高等学校 英語科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育の理念と歴史	英会話Ⅰ	英語科教材論	日本国憲法	
		2	D	教育組織論	英作文Ⅰ		AI時代の情報	
					英文法演習Ⅰ		スポーツ・フィットネス実習	
					英語読解Ⅰ		英語コミュニケーションA	
					英語音声学概論			
					イギリス文化概論			
	後期	2	C	教職入門	英会話Ⅱ	英語科カリキュラム論	ウェルネス概論	
		2	F	特別支援教育の理解	英作文Ⅱ		英語コミュニケーションB	
					英文法演習Ⅱ			
					英語読解Ⅱ			
				アメリカ文化概論				
2年次	前期	2	E	教育心理学	英米文学概論A	授業観察演習		
		1	A	中等英語科教育法Ⅰ	英会話Ⅲ			
					英作文Ⅲ			
					現代英語学Ⅰ			
			3	K	教育の方法とICT	英米文学概論B		

	後期	2	G	教育課程の理論と実践	英会話Ⅳ			
		1	A	中等英語科教育法Ⅱ	英語史概論			
					現代英語学Ⅱ			
3年次	前期	1	A	中等英語科教育法Ⅲ	文法理論	第二言語習得		小学校英語教育演習Ⅰ
		3	M	教育相談の理論と方法	イギリス文学A	英語科と異文化理解		
		3	I、J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	近現代英語研究A			
		3	L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法				
		4		教育実習Ⅰ(B類)				
	後期	1	A	中等英語科教育法Ⅳ	英文法特論A			小学校英語教育演習Ⅱ
4年次	前期	4		教育実習Ⅱ(B類)				
	後期	4		教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：特支一種免 基礎免許：小学校一種）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また、特別支援教育の理念や歴史、教育制度、障害児の発達の特性などに関する基礎的事項について学び、現代の特別支援教育の内容と方法について理解を深める。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする児童び生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、障害児の心理・生理・病理ならびに指導方法の理論について学び、各障害の特性ならびに特性に応じた教育方法の基本的な理解を深める。
2年次	前期	児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、障害の特性に応じた自立活動の内容と方法について模擬的な演習等を通じて学ぶとともに、学校現場での体験活動を通して、学校現場の特別支援教育の実際について、理解する。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、特別支援学校における教育課程の意義や編成方法、および模擬授業等を通じた授業作りのための具体的方法について理解を深める。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、児童、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、アセスメント法の演習などを通じて、特別な教育的ニーズを要する幼児児童生徒の実態把握や評価の方法について学ぶとともに、附属学校での教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、附属校もしくは協力校での特別支援学校教育実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶとともに、特別支援学校教員としての資質能力を身につける。
4年次	前期	学外の協力校で教育実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、卒業研究等を通じて、特別支援教育における現状や課題について主体的に思考・探求する能力を身につける。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。 また、特別支援教育に係る4年間の学びを省察し、特別支援教育の実践者として課題の自己探求や克服に努める。

様式第7号ウ

<学校教育教員養成課程> (認定課程: 養一種免)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営を学ぶことにより、学校教育の前提となる大まかな知識を身に着ける。学校と地域との連携や、近年問題になっている学校安全についても理解を深める。 また養護教諭として必要な、人体の解剖についての基礎的知識を身に着ける。
	後期	教職の意義、教師の役割や具体的な職務内容を通して、教職の基礎・基本やチーム学校について学ぶ。教師とは何か、教職とは何かを理解することで、教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。特別の支援を必要とする生徒に対する理解と支援についても学ぶ。 また、養護教諭が子ども達の傷病に対応するためのベースとなる、生体の機能についての理解を深める。さらに養護教諭の歴史や養護教諭の職務の基本、学校保健の基礎的な知識を身に着ける。加えて衛生管理や公衆衛生について学び、疾病の予防に関する社会の仕組みについての理解を深める。
2年次	前期	生徒の心身の発達及び学習の過程を理解することで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。道徳教育についても、児童生徒の発達特性との関連をもとに理解する。 また、感染の仕組みや薬の作用について学び、養護教諭として子供たちの傷病に対応するための基礎知識を身に着ける。さらに養護教諭として具体的な活動内容やカリキュラム、看護の基礎的知識について学ぶことで養護教諭の実践的な技術を身に着ける。
	後期	学校教育全体における教育課程の意義や編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む)と、個々の授業づくりのための教育の方法、技術や学習評価について学ぶ。教育の方法、技術とあわせて学校現場に求められるICT活用についても理解を深める。 また、栄養に関する知識や小児、精神疾患に関する知識、臨床医学の基礎的知識等を身に着け、今後のより実践的な学びの基礎を作る。
3年次	前期	各教科の学びと関連付けながら、特別活動や総合的な学習の時間の指導について学ぶ。教育相談について、生徒の心理的特質や教育的課題を捉え、カウンセリングに関する基礎的事柄を含めた支援の基礎的知識を身に着ける。 また、臨床医学の様々な科(眼科・耳鼻科・婦人科・整形外科など)の専門的知識を身に着ける。さらに救急処置や病弱児への対応などより具体的な養護教諭の実践内容について理解を深め、対応するための技術を身に着ける。さらに健康調査など、勤務した学校やそこに在籍する子供たちの健康課題を見つけ、対応するための知識や技術を身に着ける。 附属学校での養護実習を行い、3年前期までに得た学びの現場での活用方法について学ぶ。病院実習を行い、学んだ内容をより実践的な医療現場で確認し、学校現場で応用するための知識を深める。
	後期	教育実習の振り返りを行い成果と課題を明確化することにより自身の研究テーマを見直す機会とする。 また、子供たちへの対応の一つである健康相談や看護の知識技能を身に着けより実践的な技術を身に着ける。また前期に引き続き臨床医学の様々な科(皮膚科・泌尿器科、歯科等)の専門的知識を身に着ける。そして病院(精神科)での実習を行うことで、精神疾患への理解を深める。
4年次	前期	学外の協力校で養護実習を行い、理論と実践の往還による知識、技能の修得を深める。 また、養護教諭としての実践力を高めるために、より具体的な事例に基づいた対応の方法について学ぶ。
	後期	4年間の集大成として、これまでの学習履歴を省察する。自らの成果、到達点と課題を確認し、課題克服に務める。

様式第7号ウ（養護）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：養護教諭）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		教育の基礎的理解に関する科目等		養護に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2 B		教育の理念と歴史	解剖学		日本国憲法		
		2 D		教育組織論			AI時代の情報		
								スポーツ・フィットネス実習	
								英語コミュニケーションA	
	後期	2 C		教職入門	衛生・公衆衛生学	教職基礎としての子供の安全		ウェルネス概論	
		2 F		特別支援教育の理解	学校保健学			英語コミュニケーションB	
					養護概論				
					生理学				
2年次	前期	2 E		教育心理学	学校安全と危機管理	養護活動カリキュラム論		児童福祉論	
		5 O		道徳教育の指導法	養護活動論	授業観察演習			
					感染免疫学				
					薬理学				
					臨床医学 I				
					学校看護学理論と演習 I				
	後期				学校看護学理論と演習 II				
		3 K		教育の方法とICT	保健行動科学	学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル		地域福祉論 I	
		2 G		教育課程の理論と実践	健康と栄養				
					小児科学				
				精神保健					

				臨床医学Ⅱ				
				学校看護学理論と演習Ⅲ				
3年次	前期	3	M	教育相談の理論と方法	救急処置の理論と演習	健康教育教材論		
		5	O	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				
		3	L、N	生徒指導・進路指導の理論と方法				
		4		養護実習Ⅰ	臨床医学Ⅲ			
					臨床医学Ⅳ			
					臨床実習Ⅰ			
					病弱児障害児養護学			
					フィジカルアセスメント			
	後期				健康相談活動の理論と方法			スクールソーシャルワーク論
					健康調査の理論と演習Ⅰ			
					健康調査の理論と演習Ⅱ			
					臨床医学Ⅴ			
					歯科保健			
					学校看護学理論と演習Ⅳ			
				臨床実習Ⅱ				
4年次		前期	4	養護実地研究	養護実践学			
	後期	4	教職実践演習					

小学校の免許取得に必要な授業科目
及び単位数
(教員養成フラッグシップ大学の指
定大学が加える科目の活用方法)

1 種免許状取得に必要な単位数

